

築地市場跡地に係る埋蔵文化財試掘調査委託（5 築－1）

業 務 報 告 書

令和 5 年 10 月

東京都第一市街地整備事務所

株 式 会 社 ノ ガ ミ

調 査 概 要

件 名	築地市場跡地に係る埋蔵文化財試掘調査委託（5 築 1）
調査地点	東京都中央区築地五丁目及び六丁目地内
調査面積	試掘坑① 117 m ² 試掘坑② 282 m ² 試掘坑③ 401 m ² 合計 800 m ²
調査期間	事前準備 令和 5 年 4 月 1 日～ 5 月 19 日の内、 49 日間 現地調査 令和 5 年 5 月 22 日～ 10 月 27 日の内、159 日間 整理作業 令和 5 年 9 月 1 日～ 10 月 31 日の内、 61 日間
調査指導	中央区教育委員会図書文化財課郷土資料館総括文化財調査指導員 [REDACTED]
調査機関	株式会社ノガミ 関東支店 現場代理人 : [REDACTED] 主任調査技師 : [REDACTED] 副主任調査技師 : [REDACTED] [REDACTED]
検出遺構	試掘坑① 石積遺構 2 基、土丹 2 基、木杭群 2 基 試掘坑② 石積遺構 4 基、土丹 2 基 試掘坑③ 建物基礎（コンクリート製）1 基、建物基礎（赤レンガ製）1 基、下水木樋 1 基 上水木樋 1 基、上水枈 1 基、性格不明遺構 1 基
出土遺物	計 4,643 点（磁器 759 点、陶器 595 点、石器 22 点、土器 12 点、木製品 3 点、土製品 1 点、 瓦類 82 点、金属製品 6 点、銭貨 1 点、赤レンガ片 3,063 点、ガラス製品 96 点、自然遺物 3 点） * 赤レンガ片については、総重量から算出し、個数を表記したもの。 * 木杭・木板は含まず。
調査方法	1. 各試掘坑範囲は、中央区教育委員会（以下、区教委という）の事前承認により、都市整備局 立ち会いの上で設定した。 2. 試掘坑掘削作業は、区教委の指導のもと、幅 1 m、深さ 1 m の段状掘削を基本に、既 存構造物等により適宜変更し重機を用いた。遺構検出は人力で精査し、遺構調査後、 写真及び測量記録を行った。 3. 平面図及び断面図の図化はトータルステーションを使用した。座標及び標高（Tokyo Peil） は市場橋交差点北西の道路上の補助点（3A482）を使用した。また、図中に示した方位は 真北である。 4. 出土遺物は表土、盛土などの層位などの種別ごとに取り上げた。 5. 写真記録は 35 mm 一眼レフカメラ（リバーサルフィルム・モノクロフィルム）、デジタル 一眼レフカメラを使用した。

調 査 日 誌 抄 録

5 月 22 日 現場基地設営（仮設事務所設置、発電機・調査用具等搬入）、調査開始

試掘坑①

5 月 22 日 基準点測量・試掘坑位置設定

7 月 20 日 コンクリートガラ撤去作業

7 月 21 日 重機掘削及び遺構検出開始

8 月 2 日 ドローンによる空撮作業

8 月 3 日 中央区教育委員会による現場指導

8 月 9 日 遺構保護シート養生作業

8 月 9 日 重機による埋め戻し作業開始

8 月 10 日 埋め戻し作業、調査区清掃、調査終了

試掘坑②

5 月 24 日 基準点測量、試掘坑位置設定

6 月 1 日 コンクリートガラ撤去作業

6 月 1 日 重機掘削及び遺構検出開始

6 月 21 日 中央区教育委員会による現場指導

7 月 6 日 ドローンによる空撮作業

7 月 11 日 遺構保護シート養生作業

7 月 11 日 重機による埋め戻し作業

7 月 19 日 埋戻し作業、調査区清掃、調査終了

試掘坑③

8 月 24 日 基準点測量、試掘坑位置設定

8 月 29 日 アスファルト切断

8 月 30 日 コンクリートガラ、路盤材撤去作業

9 月 19 日 1段目重機掘削及び遺構検出開始

9 月 20 日 2段目重機掘削及び遺構検出開始

9 月 29 日 3段目重機掘削及び遺構検出開始

10 月 13 日 中央区教育委員会による現場指導

10 月 18 日 遺構保護シート養生作業

10 月 18 日 重機による埋め戻し作業、調査区清掃

10 月 27 日 アスファルト敷設、調査終了

地理的・歴史的環境

調査対象地である築地は、江戸幕府開設時にはまだ陸地化しておらず、隅田川河口部に広がる湿地であった。

調査地周辺は、江戸時代初期には海中であったが、少なくとも明暦2年（1656）から翌年おきた明暦の大火までには埋め立てられた。試掘坑①・②付近は、明暦2年頃から本願寺の敷地であった可能性がある。その後、町人地から御米蔵を経て、享保年中（1716～1736）には森川出羽守、有馬内膳、辻新之丞、稲葉若狭守、などの拝領屋敷地となっており、文化5年（1808）になると拝領地が大きく集約され、佐倉藩主堀田相模守の屋敷地となり、文政13年（1830）には紀州藩邸となった。安政2年（1855）には幕府御用地となり、武芸の演習地である講武所を経て、文久2年（1862）には軍艦操練所となっている。

試掘坑③周辺は、寛文2年（1662）に稲葉家（小田原藩）がこの地を拝領し、屋敷地造成を目的とした普請を行った。その後、屋敷地は一橋家のものとなったが、寛政4年（1792）に松平定信が譲り受けて隠居所とし、「浴恩園」（1829年の大火で被災。）を造園した。浴恩園内には「春風の池」と「秋風の池」という2つの池があり、浜離宮と同じく海水を引き入れた汐入りの池があり、干満による眺めの変化を楽しんだといわれている。

明治期に入ると、試掘坑①・②周辺は外国人旅館である「築地ホテル館」（慶応4年（1868）建設開始・明治元年完成）が開設され、経営不振に陥ると、明治5年（1872）にホテルは海軍へ譲渡されている。その後、試掘坑①～③を含む旧築地中央卸売市場は海軍用地となった。周辺は海軍大学校や海軍主計学校といった海軍の主要施設や学校が建設されたが、大正12年（1923）の関東大震災を契機に海軍は転出した。震災後、日本橋にあった魚河岸と京橋にあった大根河岸が海軍省から築地の用地を一部借り受け、一時的に公設市場が開設され営業を続けた。昭和10年（1935）には中央卸売市場となり、第2次世界大戦後は米軍に接収されたが、平成30年（2018）に市場が豊洲に移転するまで続いた。

1 図 試掘調査区位置図



2図 試掘坑①～③エリアの変遷1



『江戸切絵図』築地八町堀日本橋南絵図 嘉永2年－文久2年（1849－1862）刊（国立国会図書館）

3図 試掘坑①～③エリアの変遷2



明治10年（1877）の海軍省敷地（海軍兵学校・海軍軍医学校ほか）と試掘坑①～③

（『水路部沿革史』（国立国会図書館）に試掘調査区をはめ込んだ合成写真）

4 図 試掘坑①・②エリアの変遷1



『御府内沿革図書』延寶年中(1673～1681)(左)、元禄年中(1688～1704)(右) (中央区教育委員会)



『御府内沿革図書』享保年中(1716～1736)(左)、文化5年(1808)(右) (中央区教育委員会)

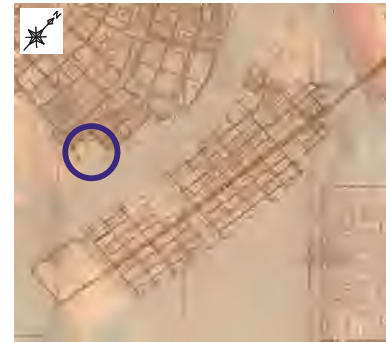


『御府内沿革図書』文政13年(1830)(左)、安政2～4年(1855～1857)(右)(中央区教育委員会)



『御府内沿革図書』文久2年(1862) (中央区教育委員会)(左)、『五千分一東京図測量原図』明治17年(1884) (国立国会図書館) (右)

5図 試掘坑①・②エリアの変遷2

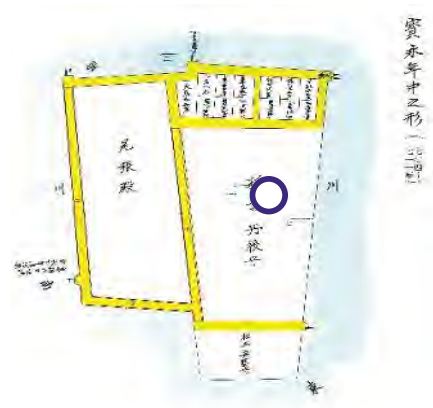
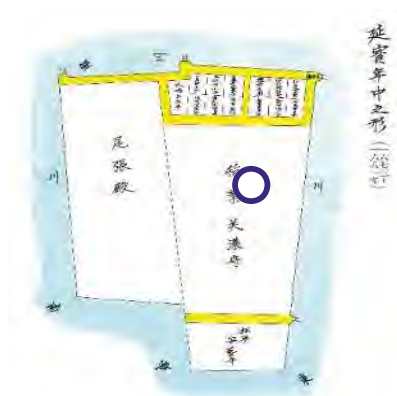


『東京1万分の1地形図修正集成』明治24年(1909)(国立国会図書館)(左)、『東京市京橋区』大正8年(1919)(国立国会図書館)(右)



『東京1万分の1地形図修正集成』大正14年(1925)(国立国会図書館)(左)、『東京1万分の1地形図修正集成』昭和12年(1937)(国立国会図書館)(右)

6図 試掘坑③エリアの変遷1

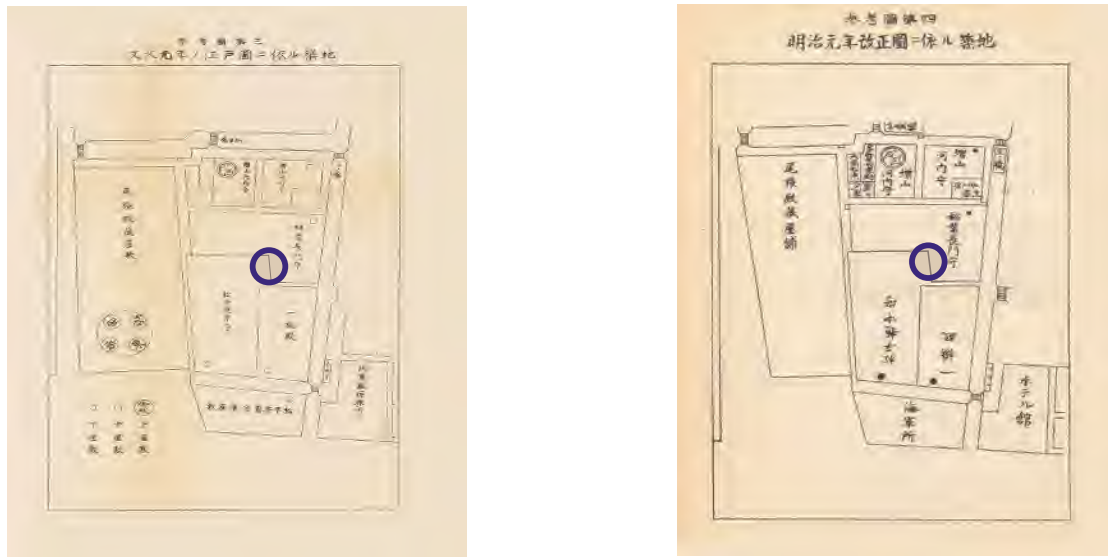


『御府内沿革図書』延寶年中(1673~1681)(中央区教育委員会)(左)、寶永年中(1704~1711)(中央区教育委員会)(右)

7図 試掘坑③エリアの変遷2



『御府内沿革図書』文化5年（1808）（中央区教育委員会）（左）、文久2年（1862）（中央区教育委員会）（右）



『水路部沿革史』文久元年（1861）（国立国会図書館）（左）、明治元年（1868）（国立国会図書館）（右）



『水路部沿革史』震災以前頃の海軍省空中写真(国土地理院)（左）、東京都埋蔵文化財センター所蔵の『海軍兵学校沿革』第1巻合成図に試掘調査区を赤で記したもの

調 査 成 果

試掘坑①

調査面積 117 m²

検出遺構 計6基（石積遺構2基・土丹2基・木杭群2基）

出土遺物 点数2,045点、重量244kg（磁器366点、陶器384点、炆器19点、土器3点、木製品2点、土製品1点、瓦類29点、ガラス製品35点、赤レンガ1,205点、自然遺物1点）

調査所見 現地周辺の地表面標高（以下、GL という）は約3.5mを測るが、旧厚生会館を解体した時点で、GL-3.5 m（TP=約0.20m）まで削平されていた。また、解体時に発生したコンクリートガラや土砂を取り除くとさらに約-20 cm下がり、この標高（TP=± 0.0 m）で旧護岸とみられる石積遺構とその裏込めとみられる土丹が検出された。これらの遺構はいずれもTP=-1.20～0.00mの範囲で確認された。

石積遺構については、試掘坑②や令和4年度の試掘坑である①でも確認されているため、令和4年度の調査で確認された石積遺構A・Bを起点に連番とし、当調査区で確認された石積遺構をC・Dとした。当試掘坑の石積遺構はA区とB区で確認されたが（8図）、いずれも隅田川に併行し直線上に並ぶことから、同一遺構として調査を行った。石積遺構の長さは、Cが9.03 m、Dが22.81 mを測り、検出面の標高はC・DともにTP= 0.00 m前後であった。しかし、いずれも上段は後世の攪乱により壊されており、遺存していた石垣石は調査できた範囲で2～4段が確認された。石垣石の規模や形状は均一ではなく、C・Dともに小面縦 30～66 × 小面横 38～44 cm、控え 34～66 cmであった。規模や形状に統一性がないのは、再利用した石垣石が用いられていたための可能性が考えられる。また、石垣石はすべて安山岩で、刻印などは認められなかった。

石積遺構の裏込めには褐色ないし淡褐色を帯びた土丹が、奥行2.5 m、高さ0.54 mの範囲で確認されたが、表層では既に崩れた状態で、後世の攪乱も多かった。

石積遺構より隅田川側では、A・B区ともに木杭群が検出された。赤松材とみられ、直径15 cmから30 cm前後のものが主体である。地盤補強として何らかの建物の基礎として使用された可能性が窺われる。

石積遺構の構築時期については、遺構に伴う遺物が少なく明確に把握することはできなかった。しかし、令和4年度の調査では、江戸時代中期の整地層である第3層より上面で石積遺構が構築されていることや、関東大震災時（1923年）に損壊した海軍省の建物に使用されていたものと推測される赤レンガ片が遺構上から出土していること、土丹や石垣石内から出土した遺物が江戸時代中期に比定されることなどから、江戸時代中期以降に構築され、明治時代まで使用されていたものと考えられる。

次に、試掘坑①で出土した遺物について述べていきたい。

試掘坑①は旧厚生会館を解体した時点でTP=約0.20 m地点まで削平されていた。そのため、出土遺物は大きく分けて、①層厚20 cmほどの近・現代の盛土層内、②近世の石積遺構内、③石積遺構の隅田川側の埋土内から出土したものに大別される。以下、①～③ごとに紹介していきたい。

①の層厚は20 cmほどで近・現代の盛土層内である大半が関東大震災で倒壊した海軍省の建物部材とみられる赤レンガ片である。これらの赤レンガは震災後に行われた造成工事により、当地内で整地の際、廃棄されたものと思われる。

②の石垣石及び土丹内・杭群内の遺物は、18世紀代に比定されるものが多いものの、17世紀後葉に比定される遺物も見られる。

また、石垣石内の遺物には、水中から入り込んだ後世の遺物も混入しているようで、近代の遺物も認められる。肥前産の磁器碗や鉢、瀬戸・美濃産の陶器徳利、堺・明石産や丹波産の播鉢等が認められる。また、唐華文の皿（1650年

以前カ)が木杭群の隙間から出土している。

③の主に石垣石隅田川側の埋土層から出土した遺物は、上層の遺物と下層の遺物に大別され、上層の遺物は18世紀代～20世紀代に、下層の遺物は主に17世紀後半～18世紀代に比定される。肥前産の磁器鉢、瀬戸・美濃産の播鉢等が該当する。17世紀中葉以降に比定される瀬戸・美濃産陶器菊皿や17世紀後葉のコンニャク印判(菊花文)の肥前産磁器皿も出土している。

なお、先述した赤レンガには刻印が認められているものが10点あった。試掘坑①～③全域で出土したレンガ刻印と合わせると、刻印のある赤レンガの総出土数は90点に及ぶ。その内訳は以下のとおりである。

- ・「輪違い」・・・8点(試掘坑②4点、試掘坑③4点)
- ・「桜花」・・・4点(試掘坑①1点、試掘坑②3点)
- ・「扇」・・・32点(試掘坑①3点、試掘坑②7点、試掘坑③22点)
- ・「久」・・・6点(試掘坑①2点、試掘坑②3点、試掘坑③1点)
- ・「八」カ・・・6点(試掘坑②3点、試掘坑③3点)
- ・「二」カ・・・6点(試掘坑②4点、試掘坑③2点)
- ・「工」カ・・・5点(試掘坑②1点、試掘坑③3点、試掘坑③1点)
- ・「リ」カ・・・5点(試掘坑②1点、試掘坑③4点)
- ・「ツ」カ・・・1点(試掘坑②1点)
- ・「ヲ」カ・・・5点(試掘坑②3点、試掘坑③2点)
- ・判読不明・・・12点(試掘坑①3点、試掘坑②3点、試掘坑③6点)

「桜花」は4点確認されたが、当遺跡周辺では、千代ヶ崎砲台跡(明治28年竣工・東京湾の要塞)のほかに陸上自衛隊十条駐屯地などの軍事関連施設で確認される例が多い。出土した「桜花」の赤レンガは14種類の花章を刻印として用いていた小菅集治監製のレンガである可能性が高く、葛飾区「郷土と天文の博物館」所蔵、小菅集治監製煉瓦の「桜花」刻印と酷似している。

「扇」は、北区飛鳥山公園にある青淵文庫の露台基礎等に見られるが、今回の調査では一番点数が多く、32点を確認された。

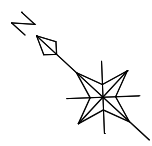
「輪違い」は、三菱製紙中川工場や日本煉瓦製造旧事務所に展示されている刻印と酷似しており、日本煉瓦製造所製の可能性が高い。

「二」カ、「八」カは、江の島サムエル・コッキング苑ほか全国各地で確認されており、製作所は複数存在するとみられる。

整地面 試掘調査開始時にすでにGL-3.5m(TP=約0.20m)まで削平されていたため、近世以降の整地面は確認されなかった。しかし、旧護岸とみられる石積遺構は上層部を除き検出された。

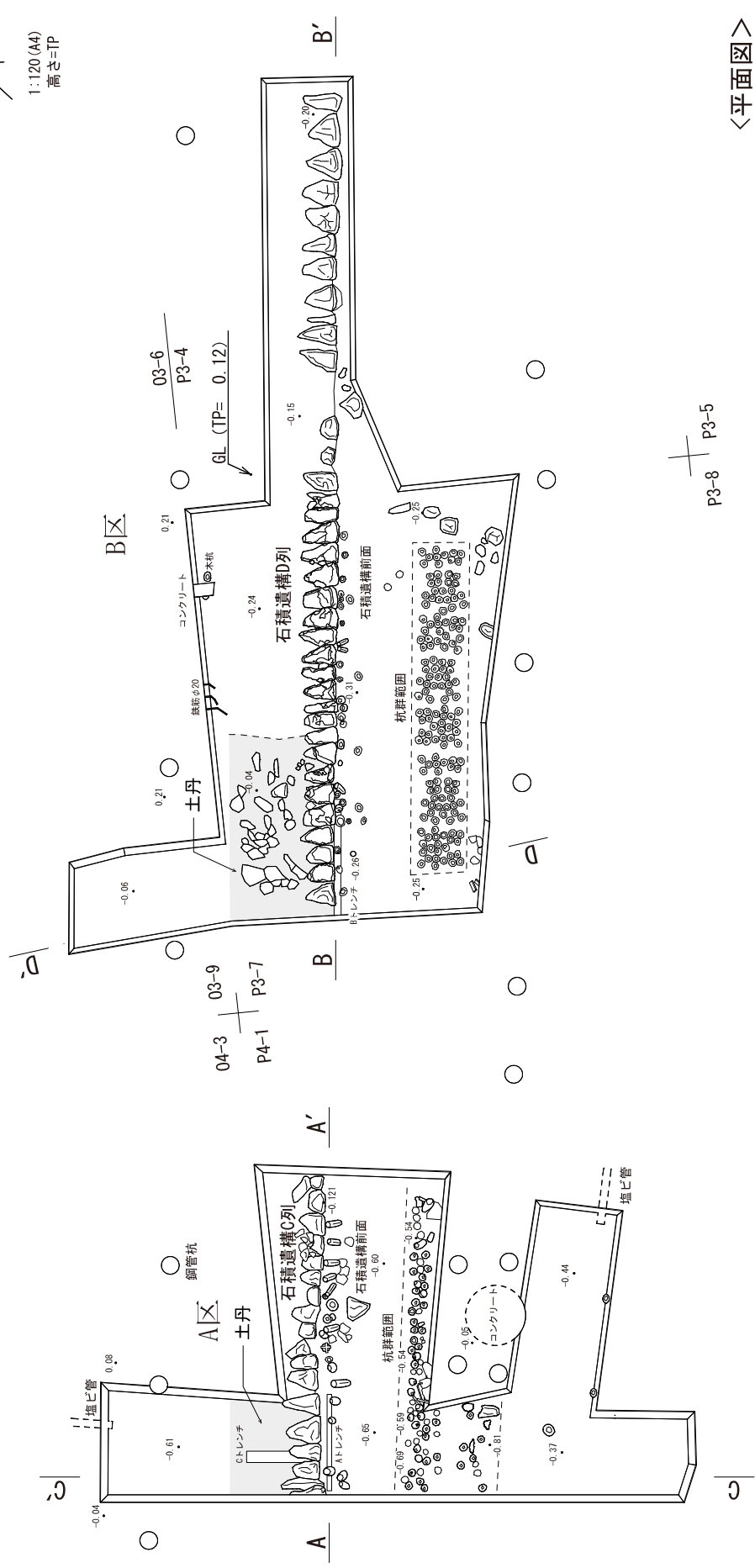
【参考文献・デジタル資料】

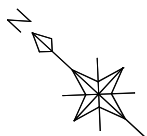
- ・水野信太郎『日本煉瓦史の研究』法政大学出版局2013年4月
- ・葛飾区HP
- ・「煉瓦刻印写真集」『歩鉄の達人』



1:120 (A4)
高さ=TP

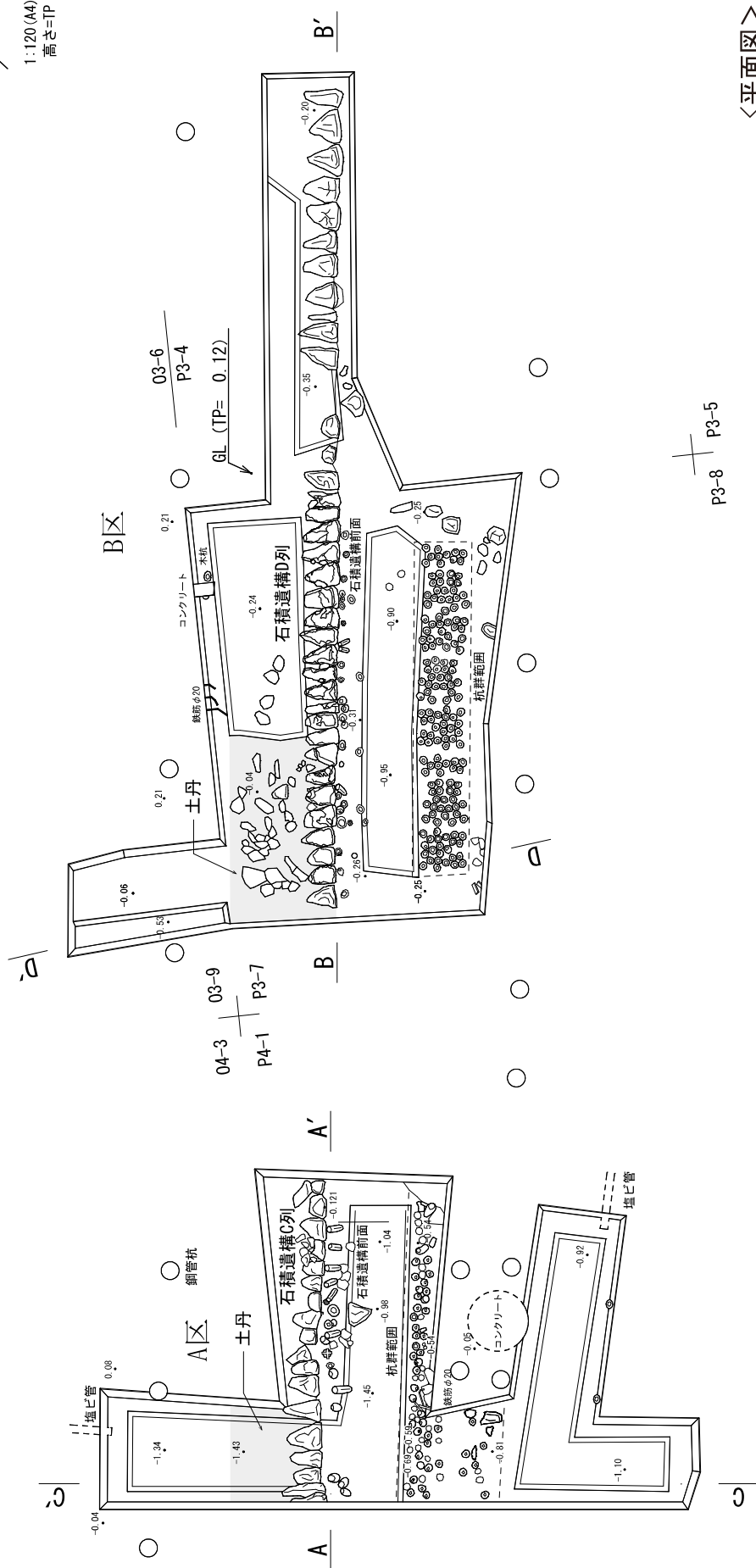
8 図 試掘坑①遺構実測図-1 (H=0.10m)



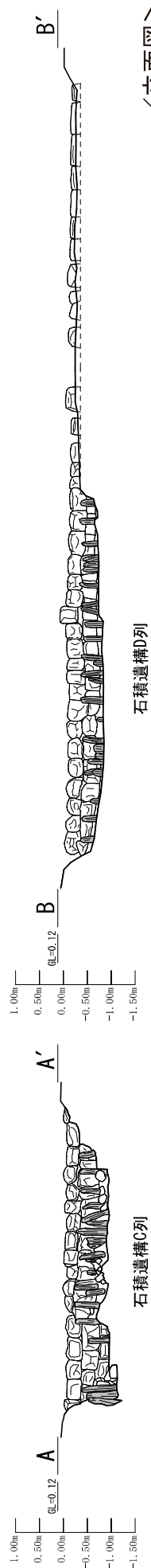


1:120 (A4)
高さ=TP

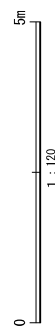
9 図 試掘坑①遺構実測図-2 (H=-1.0m)



<平面図>



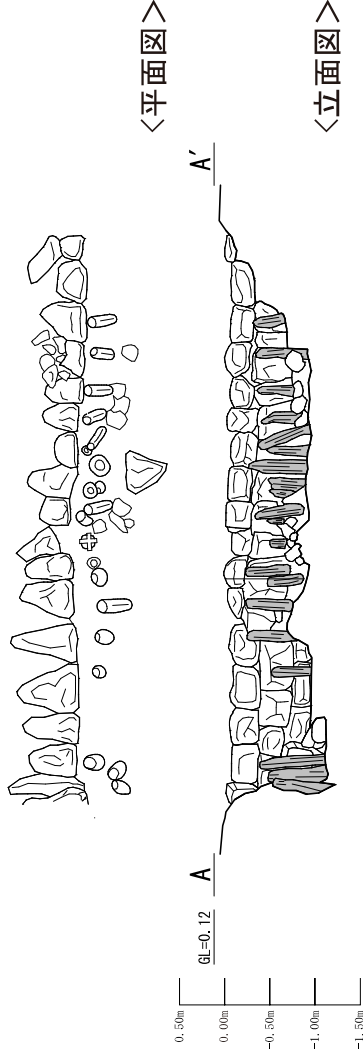
<立面図>



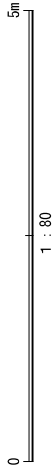
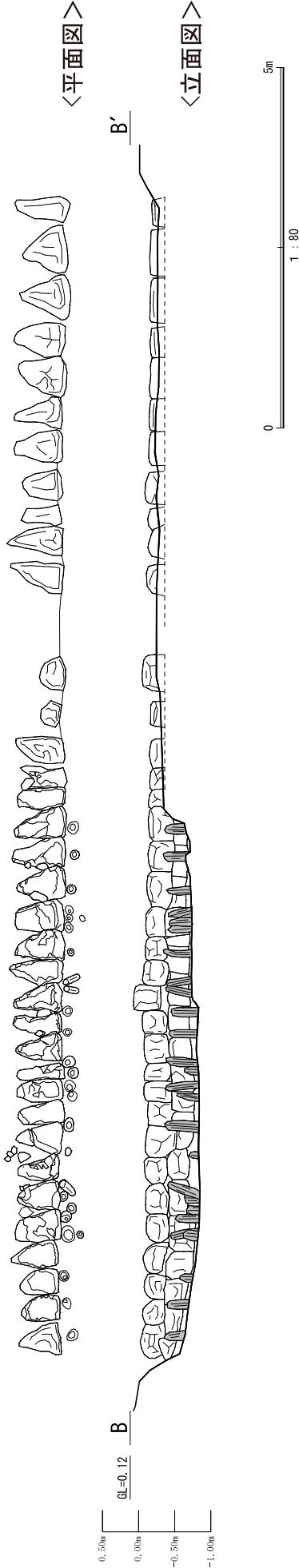
○: コンクリート注入鋼管杭 φ0.35

10図 試掘坑①遺構実測図-3 1/80

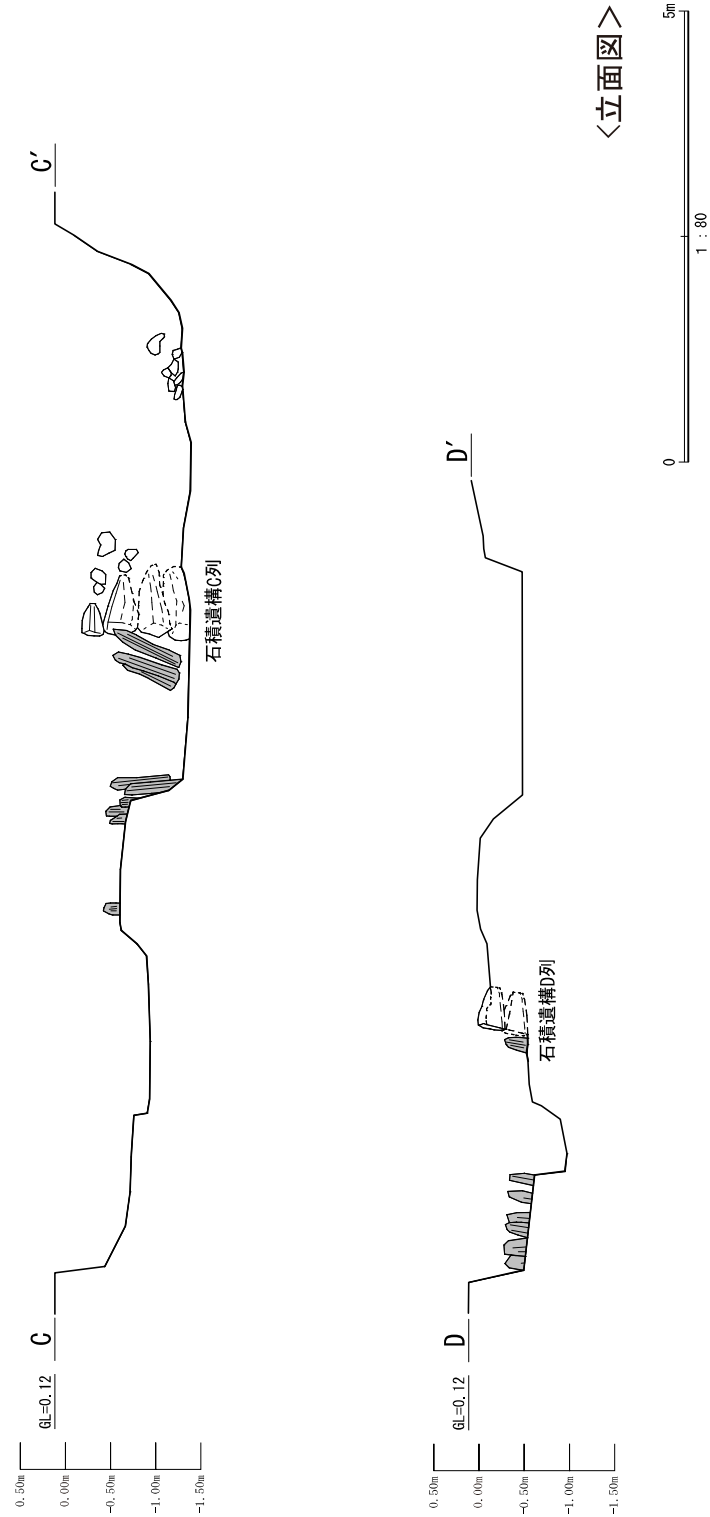
石積遺構C列



石積遺構D列



11図 試掘坑①遺構実測図-4 1/80



試掘坑②

調査面積 282 m²

検出遺構 計 6 基（石積遺構 4 基・土丹 2 基）

出土遺物 点数 1,629 点、重量 262kg（磁器 108 点、陶器 98 点、炆器 2 点、土器 4 点、瓦 40 点、木製品 1 点、金属製品 5 点、ガラス製品 26 点、自然遺物 1 点、赤レンガ 1,344 点）

調査所見 現地周辺の地表面標高（以下、GL という）は 3.42m～3.48m を測るが、すでに GL-1.90m～2.00m（TP=約 1.30m）まで削平されていた。また、TP=0.80～1.10m までは褐色土主体の昭和期の埋め立て層（第 1～3 層）である。この埋め立て層を取り除く過程で護岸遺構とみられる石積遺構とその裏込めとみられる土丹が検出された。これらの遺構はいずれも TP=-1.20～1.10m の範囲で確認された。

本年度調査区と令和 4 年度調査で確認された石積遺構は A～H まで確認されたが、当調査区では E～H が該当する（13 図）。しかし、石積遺構の方向や石垣石の規模や形状から、同一遺構であると判断できる遺構が 3 基に集約されるため、下記に示した 1～3 の順で整理しながら述べていきたい。

1. 隅田川に併行に並ぶ遺構「石積遺構 A・C・D・G」
2. 隅田川に併行に並ぶ遺構「石積遺構 F・H」
3. 隅田川に直交する遺構「石積遺構 B・E」

F・H は、いずれも隅田川に併行して直線上に並ぶことから、同一遺構と捉えた。また、E は令和 4 年度の試掘坑 1 で確認された B と位置的に同一遺構と考えられる。

そこで、ここでは調査区内で確認された石積遺構を令和 4 年度調査で確認された石積遺構の調査結果と照らし合わせて述べていきたい。

上述した通り、1 と 2 は、隅田川に併行に並ぶ石積遺構であるが、その中でも 1 は、江戸時代中期の整地層である第 3 層より上面で石積遺構が構築されていることや、A の土丹内から出土した遺物などから、江戸時代後期に構築されたとみられる。石垣石の規模も 2 より大きく、A の石垣石は小面縦 32 ～ 66 × 小面横 38～48 cm、控え 36～66 cm、B・E の石垣石は小面縦 30～36 × 小面横 41～44 cm、控え 30 cm 前後であった。

なお、令和 4 年度の試掘調査で確認された石積遺構（図 16）と今回確認された石積遺構も配置的には同一遺構と思われ、A～D までの未調査の範囲も含めて勘案すると、約 75.92m に渡って江戸時代の隅田川沿いにあった護岸を確認できたと言えよう。

2 は、遺物から明治期以降に構築されたと考えられるが、石垣石の隙間にビニル紐や空き缶のプルトップが挟まっていたことから、現在の護岸が付設されるまで隅田川の波に晒されていたものと思われる。

3 は、隅田川に直交する遺構であり、石積遺構及び令和 4 年度調査で確認された A と T 字状にぶつかる。その形状から舟入場であることが選択肢のひとつとして想定されている（令和 4 年度度試掘調査報告書）。また、A と B は、同時に構築されたのではなく、切り合いから A が先行し、次に B が構築されたものと考えられる。

試掘坑 2 の出土遺物は、すでに GL-1.50m 前後（TP=約 2.00～2.30m）まで削平されていたため、（1）石積遺構より上層の層内、（2）F・H 外側の埋土層内、（3）G の外側の埋土層内の 3 か所から出土したものに大別される。

1 の出土遺物は、少量ではあるが近代～昭和時代の遺物と共に出土している。2 の出土遺物は、上層では 19 世紀代の磁器碗等が出土しているが、下層では 18 世紀代の堺・明石産の播鉢等が出土していた。その理由としては、下層では F・H が護岸として機能していた時期に投棄されたり流れ着いたりした遺物が溜まっていたためと思われる。上層の出土遺物については、護岸としての役割を終え、新しく造られた F・H との間を埋めていく過程で、埋土に

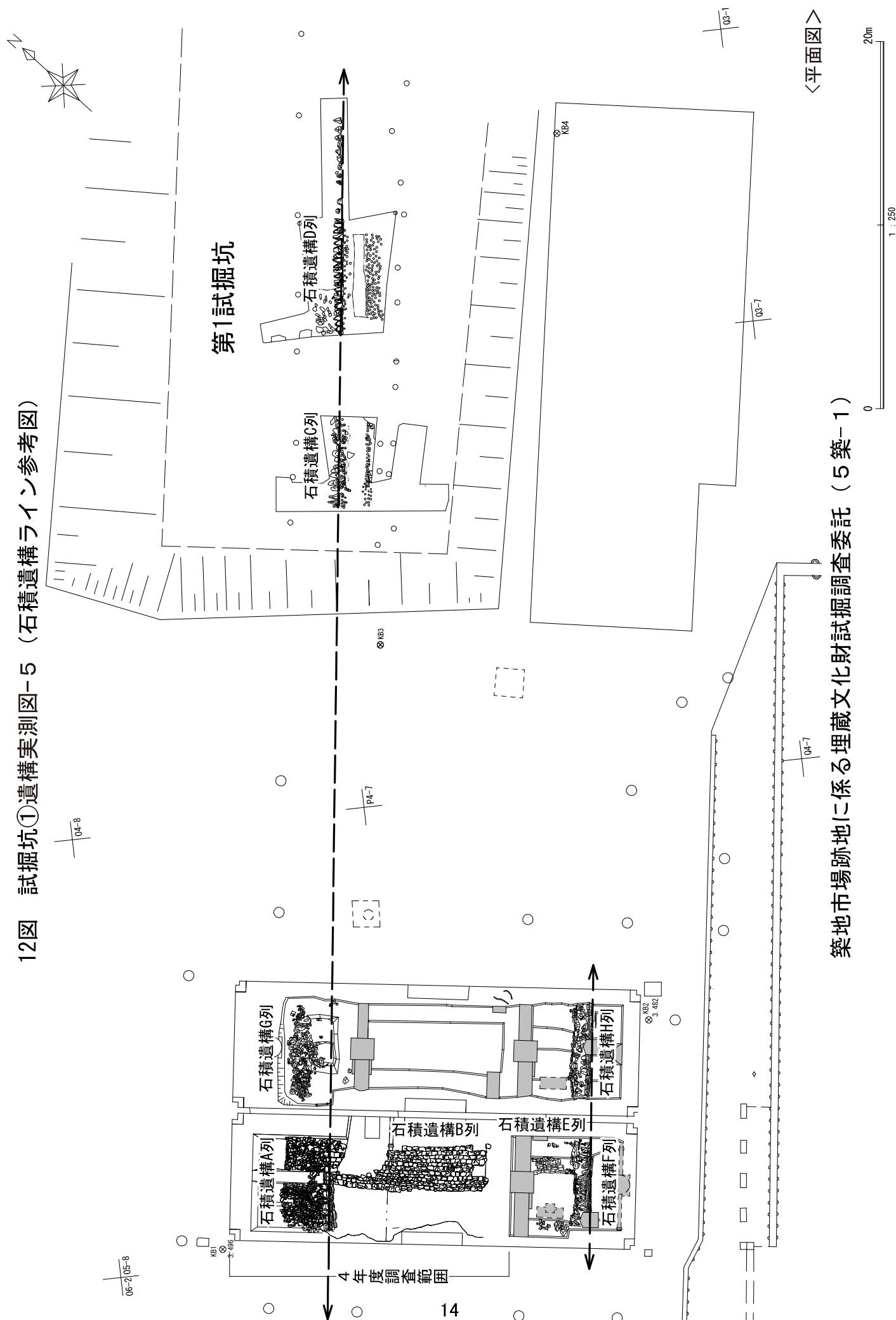
混入あるいは投棄されたものであろう。3の出土遺物は、黒釉が掛かった17世紀後半とみられる瀬戸・美濃産の陶器碗や、18世紀前葉から中葉の京・信楽焼の腰折れの碗や19世紀代の遺物がみられた。加えて、震災後の造成事業の際に投棄されたとみられる赤レンガ片も多数出土していた。

整地面

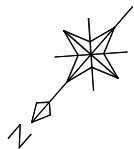
試掘2の調査で明らかになった整地面と構成する土層を以下に記す。

- ① 調査開始時に、GL-1.50m前後（T P＝約 2.00～2.30m）まで削平されており、昭和10年の築地市場開設時の整地面は削平されていた。1～3層は昭和期の埋立層である。
- ② 関東大震災後に海軍省の関連施設の廃材を主体に造成した面（4層）。
- ③ 江戸期に構築された石積遺構は上部が取り除かれており、近世の整地面は確認されなかった。

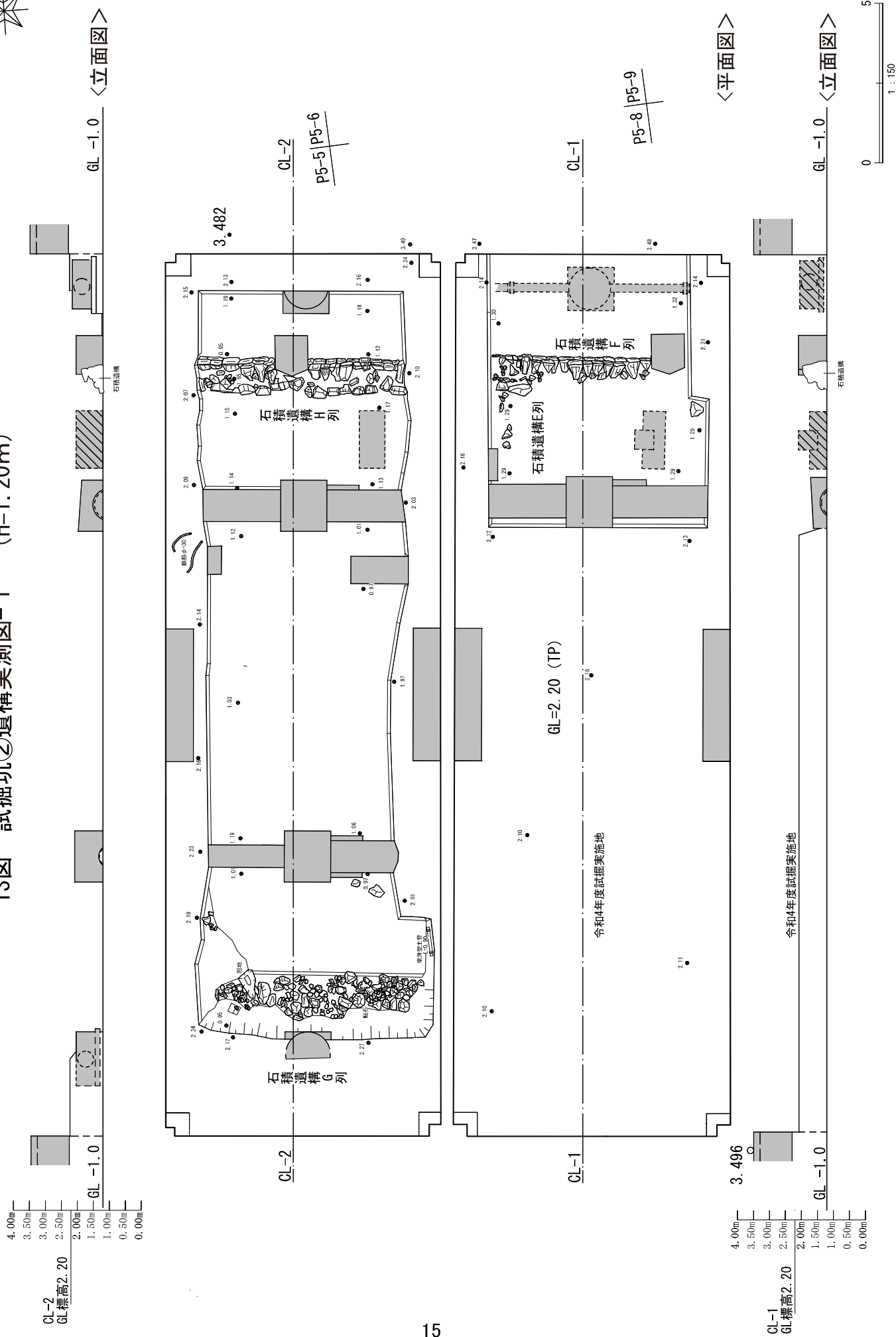
12図 試掘坑①遺構実測図-5（石積遺構ライン参考図）



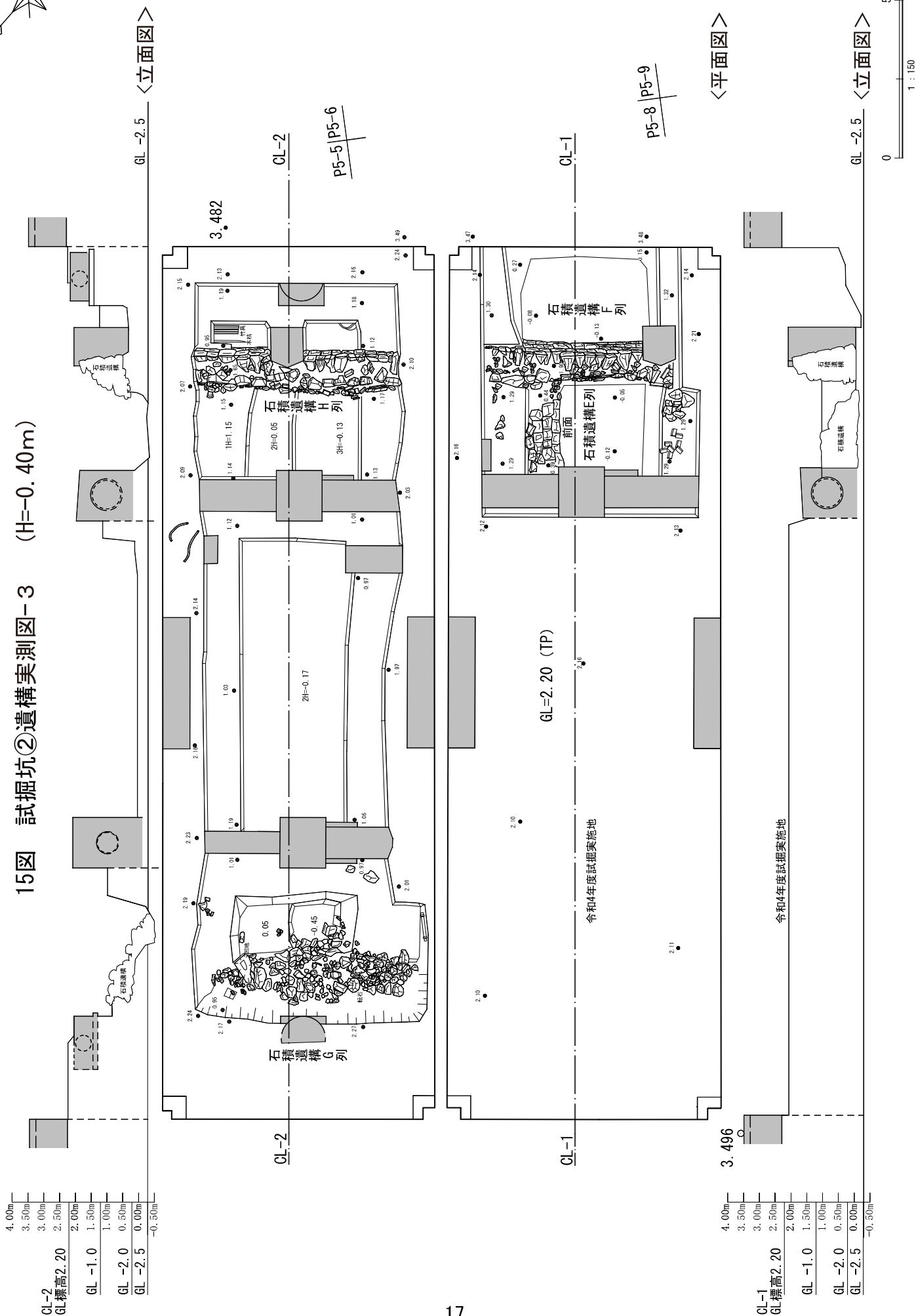
築地市場跡地に係る埋蔵文化財試掘調査委託（5 築-1）



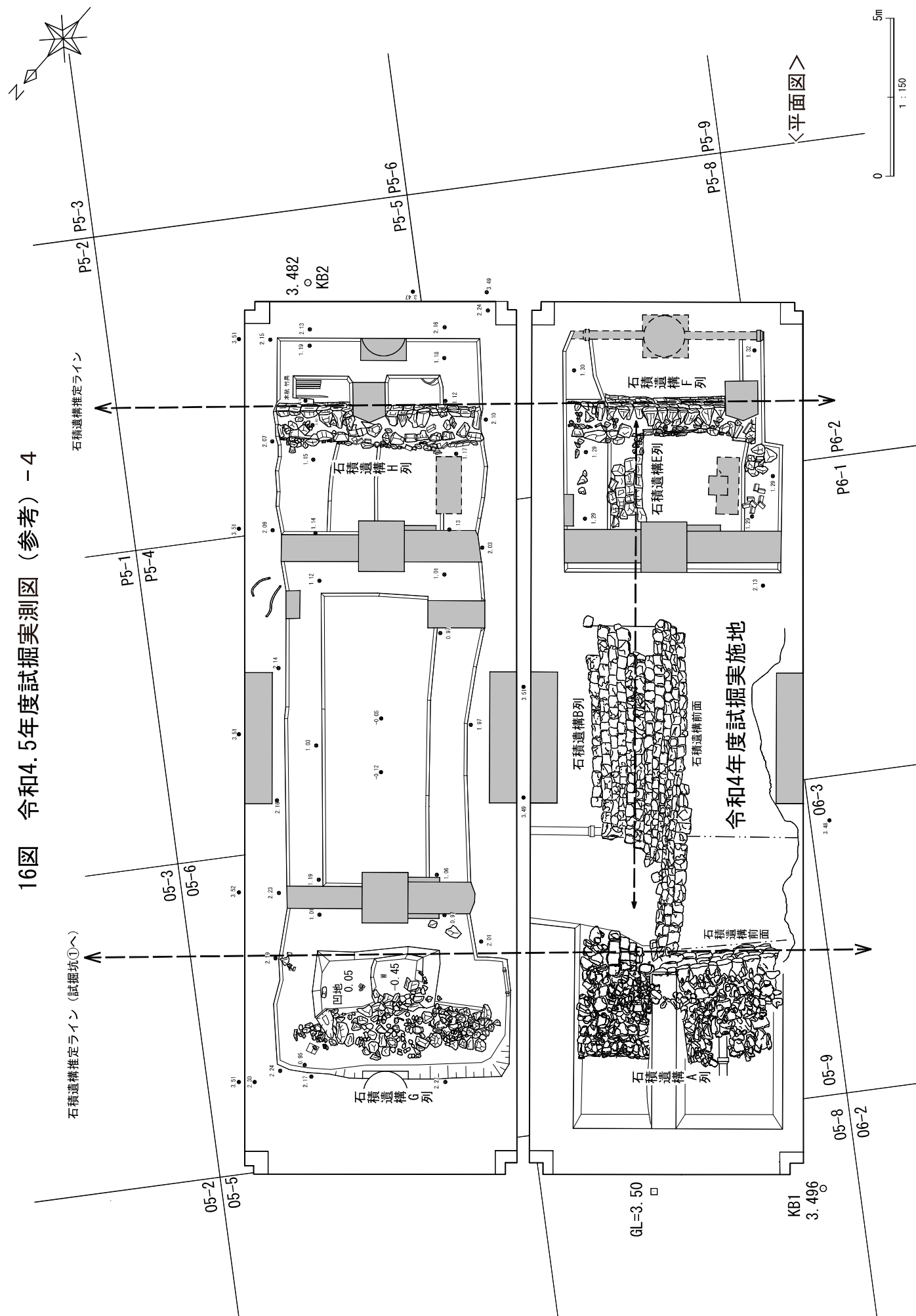
13図 試掘坑②遺構実測図-1 (H=1.20m)

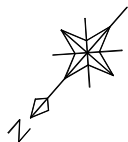




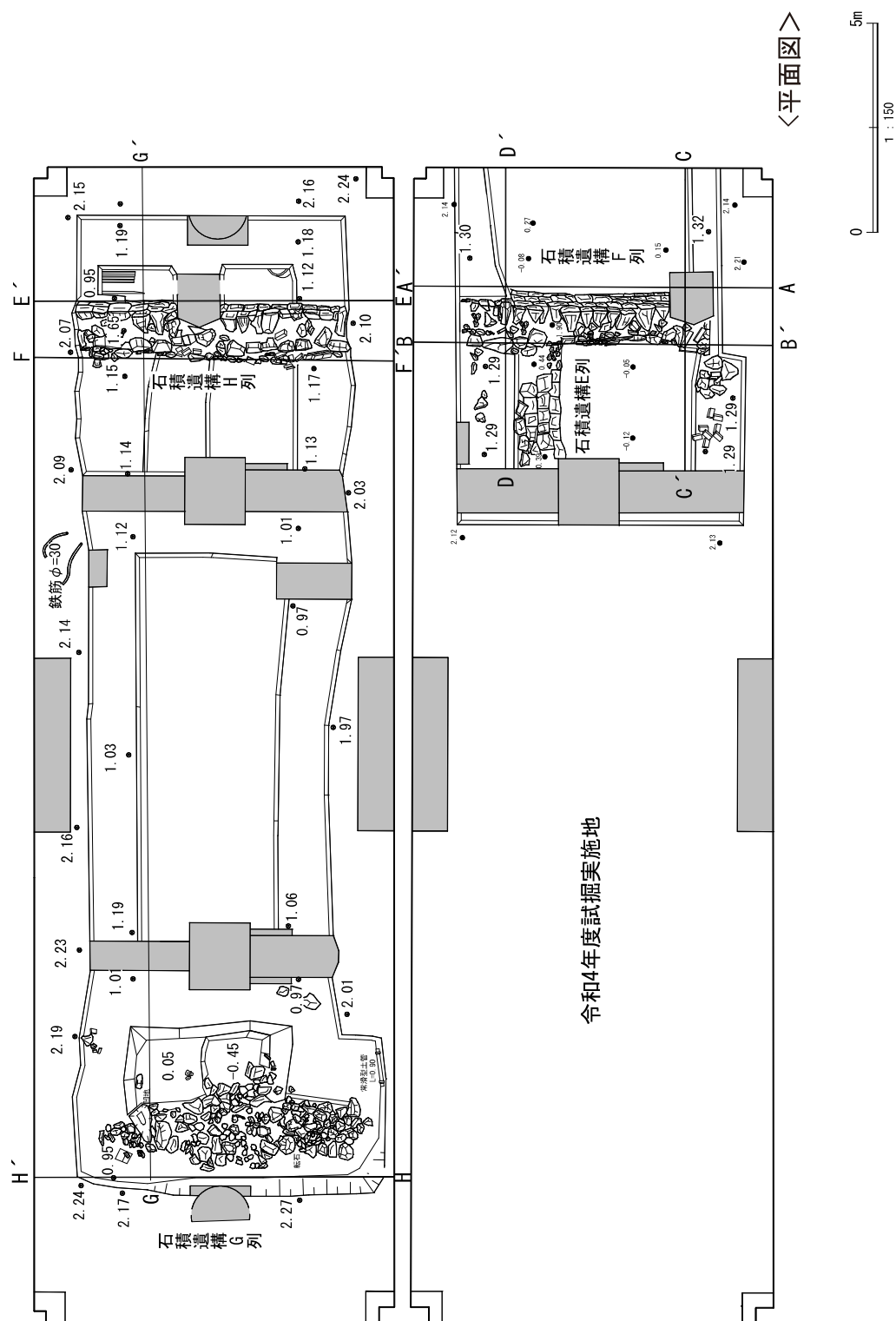


16図 令和4.5年度試掘実測図（参考）-4



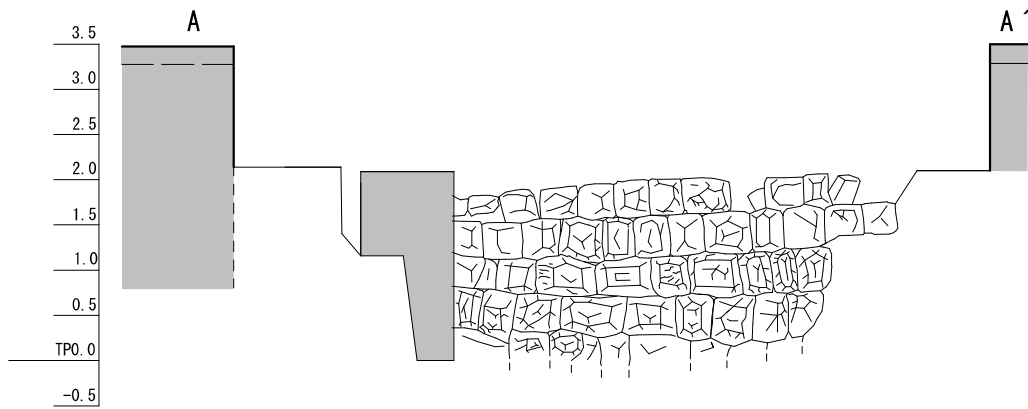


17 図 試掘坑②遺構実測図-5（断面採取位置図）

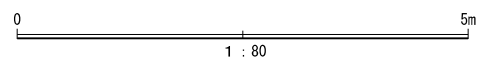
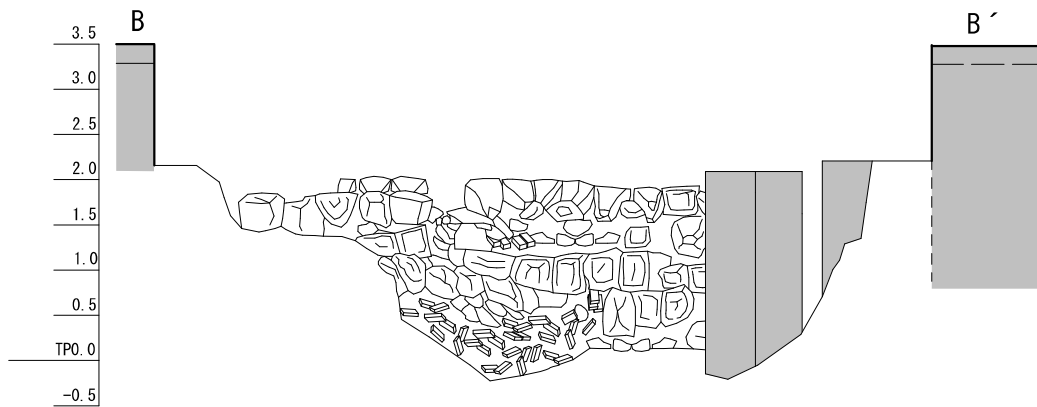


18 図 試掘坑②遺構実測図 - 6 1/80

A-A' 立面図

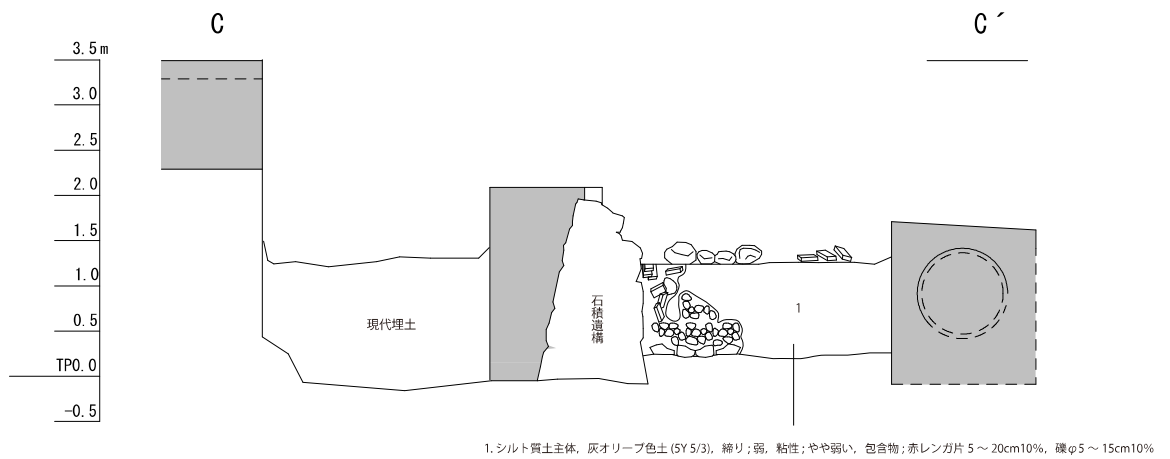


B-B' 立面図

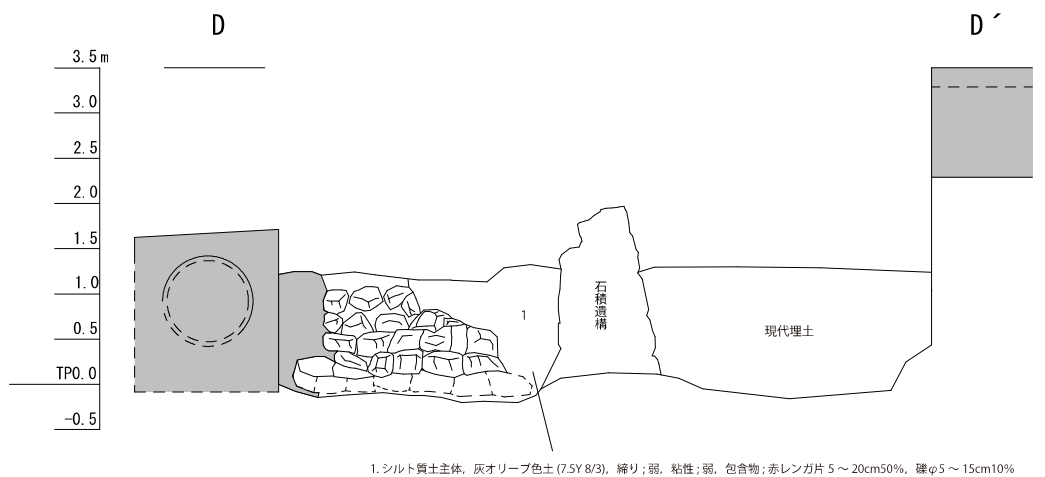


19 図 試掘坑②遺構実測図 - 7 1/80

C-C' 立面兼断面図



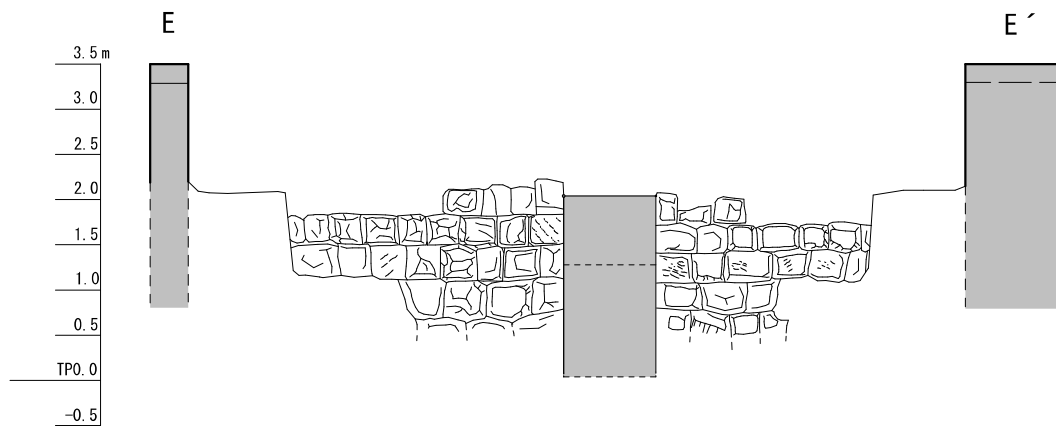
D-D' 立面兼断面図



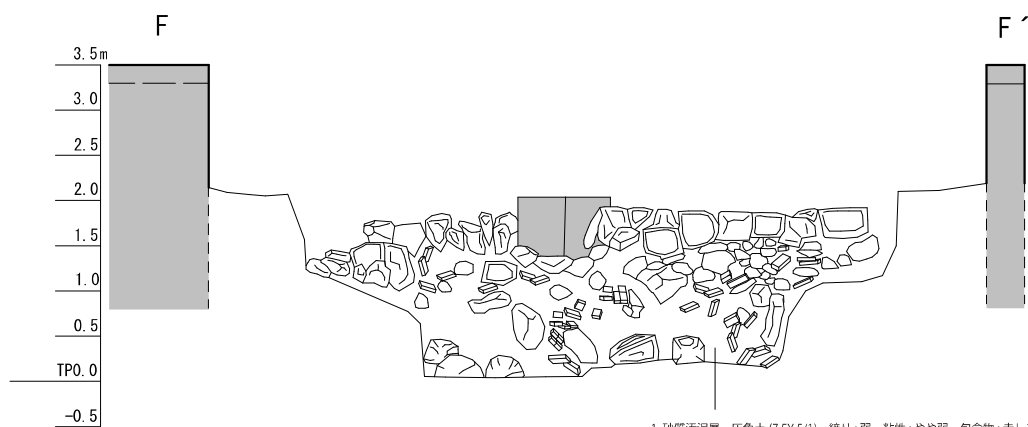
0 5m
1 : 80

20 図 試掘坑②遺構実測図 - 8 1/80

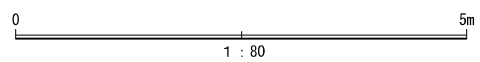
E-E' 立面図



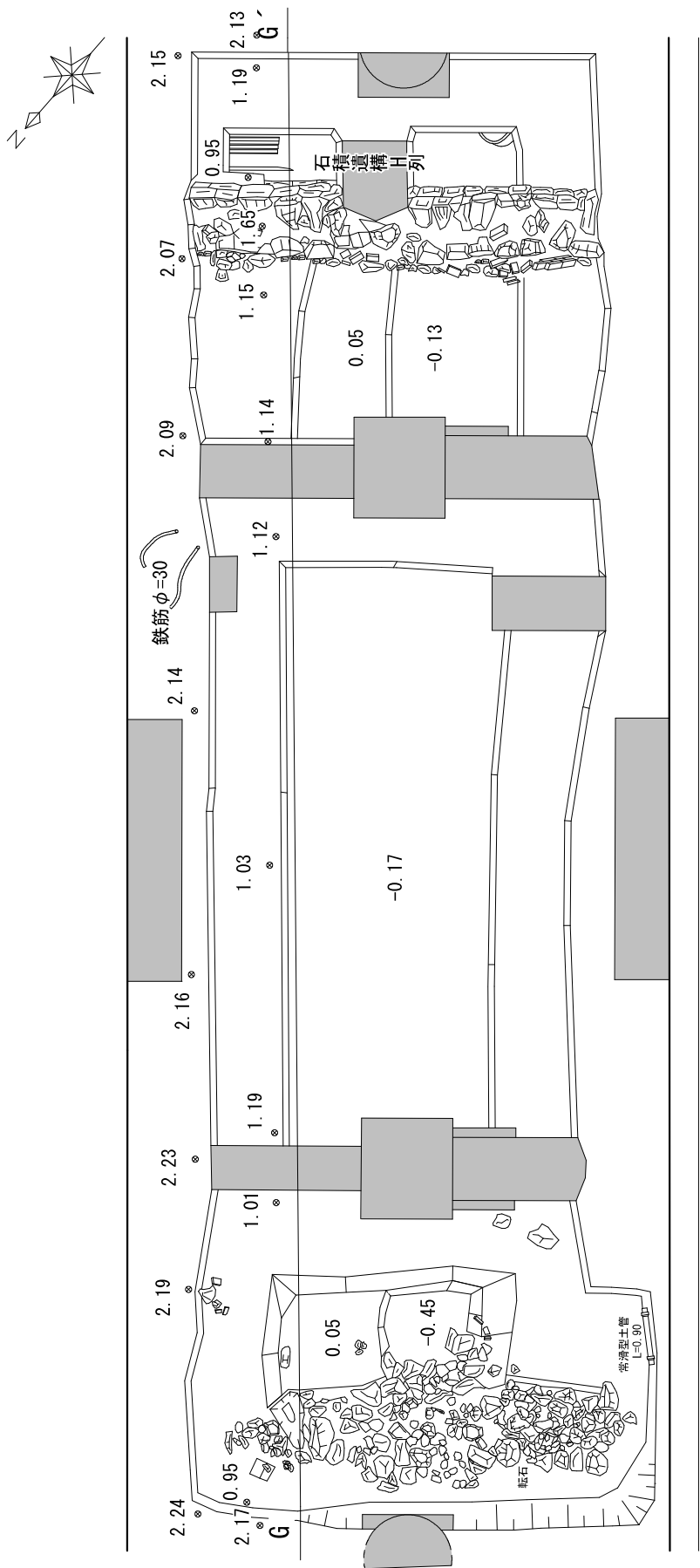
F-F' 立面兼断面図



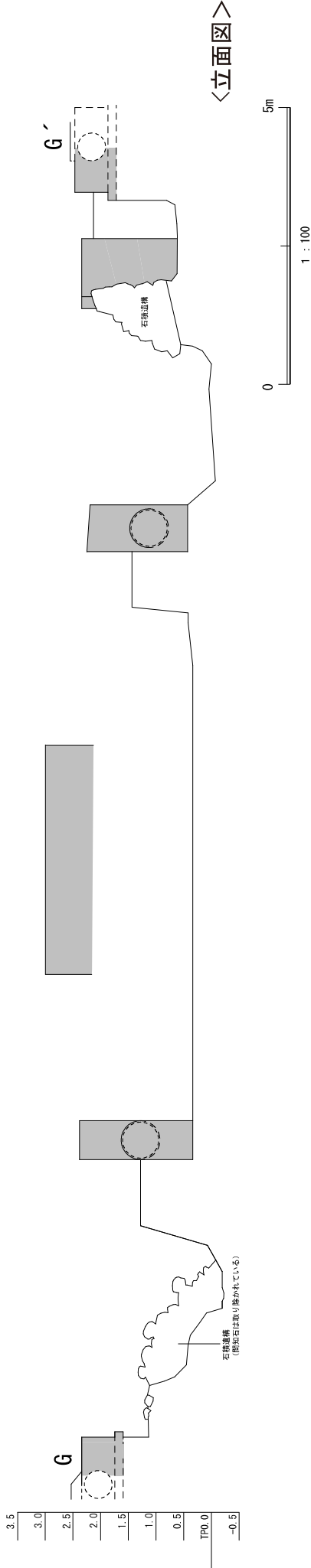
1. 砂質汚泥層, 灰色土 (7.5Y 5/1), 締り; 弱, 粘性; やや弱, 包含物; 赤レンガ片 5 ~ 20cm60%, 礫φ5 ~ 15cm5%



21 図 試掘坑②遺構実測図 -9 1/100



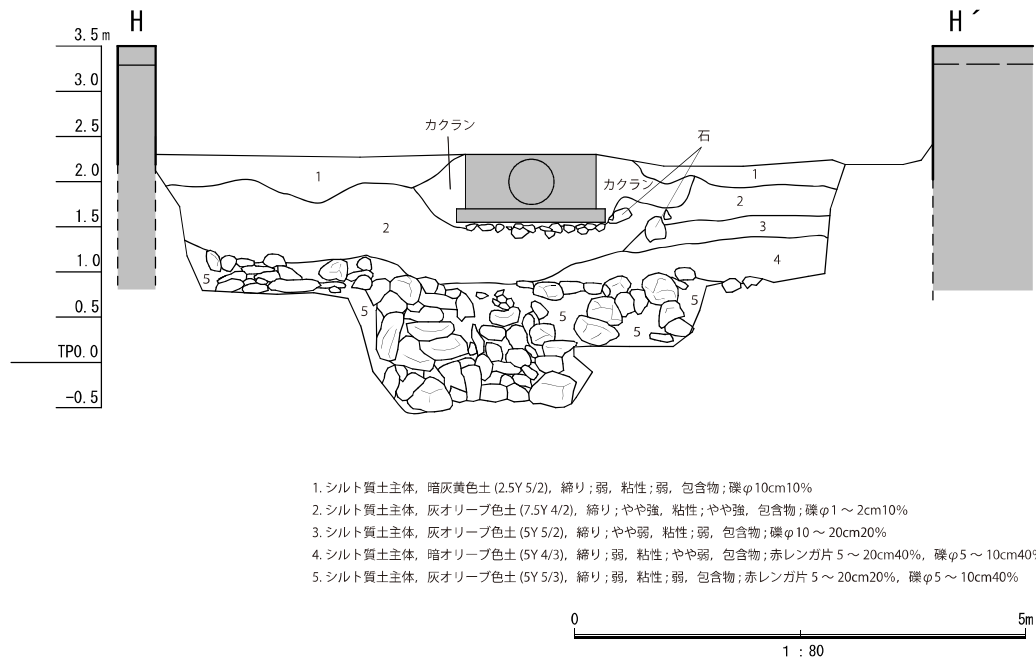
<平面図>



<立面図>

22 図 試掘坑②遺構実測図 -10 1/80

H-H' 立面兼断面図



試掘坑③

調査面積 401 m²

検出遺構計 6 基（建物基礎（コンクリート製）1 基、建物基礎（赤レンガ製）1 基、土留め遺構 1 基、上水木樋 1 基、上水枡 1 基、性格不明遺構 1 基）

出土遺物点数 969 点、重量 91 kg（磁器 285 点、陶器 113 点、炆器 1 点、土器 5 点、瓦類 13 点、金属製品 1 点、ガラス製品 35 点、銭貨 1 点、赤レンガ 514 点、自然遺物 1 点）

調査所見 試掘調査区の南西部は、旧築地市場に関連したインフラ関係の埋設管が複数検出され、そのため大部分が埋設に伴う客土となっている。また調査区内北部は旧築地市場の建物基礎によって壊されており、昭和時代の整地層と近代の整地層の境も不明瞭な箇所が目立った。

調査区の掘削作業を始めた段階で、コンクリートガラが混入した盛土層を確認した。この盛土は昭和10年の築地市場開設に向けての大規模な造成工事によるものと考えられ、地表面～TP=2.3mまで約60cmの層で、旧表土層である。

旧表土層の下は赤レンガ片を主体とする整地層で、また、ガラス瓶の破片やコンクリートガラが赤レンガ片と共に出土しており、関東大震災時に崩壊した海軍省時代の建物施設の廃材と考えられる。基本土層 1～3層が該当する。その後、TP=1.8m まで掘削し、赤レンガ製の建物基礎 1 基を確認した。土層はシルトと砂質土を主体とした褐色土である。TP=1.5m まで掘削すると、建物基礎と考えられるコンクリート床が 7.87 m²の範囲で確認された。このコンクリート床はレンガ片主体の層と近世の造成層の間層に位置している。

なお、当概期は関東大震災直前の航空写真などから多くの海軍省関連施設が建てられていたことがわかっており、今回確認された遺構は明治16 年（1883）に開校された生徒館の一部とみられる。基本土層 4～13層に該当する。

また、このコンクリート床から長軸20 cm、深さ10 cmほどの小穴がコンクリート床上に2か所検出された。他にコンクリート床にモルタルで固定されたレンガ構造物が 2 か所で確認された。しかし、当時の建物写真からはどのような構造物であったかは判然としない。

なお、このコンクリート床直下からは、径約15～20 cm ほどの松杭が密集した状態で検出された。これは、軟弱な地盤を補強するために行われた工法で、千代田区霞ヶ関に所在した海軍省の庁舎・施設址、大正3年（1914）に完成した東京駅丸の内駅舎、昭和5年（1920）に起工された旧丸ビル等でも確認されている。TP=0.37m まで掘削し、近世に比定される整地面を確認した（基本土層21層と22層の間）。位置的に稲葉家（小田原藩）の拝領地とみられる。この層では、上水木樋 1 基、上水枡 1 基、土留め遺構 1 基、性格不明遺構 1 基が確認された。層位TP=1.0～1.3m の間で確認された上水木樋 1 基と上水枡 1 基は、近世の層を掘り込み南北に延びて検出された。時期は遺物から江戸時代前期から中期であった可能性があり、松平家との境界付近で確認された。木樋は、先述した明治期の建物基礎（コンクリート製）の松杭によって壊されていた。土留め遺構 1 基は、調査区中央部に位置し、大きく壊されていたが、土留状に組まれた板と杭が向かい合う格好で確認された（25 図）。しかし土層断面の観察結果からはレンガ廃棄層を掘り込んでいた痕跡があったことから、震災後に上水木樋等を取り除いた可能性もある。調査区内北西部では、性格不明遺構 1 基が検出された。3本の杭と木板の小片のみの確認に留まっているが、建物の基礎とみられる。

遺物が出土した層は大きく分けて3層である。内訳は、①上層（旧築地中央市場を造成した層）、②中層（震災前の海軍省の時期の生活面を構成していた層）、③下層（近世の生活面を構成していた層）、となる。①の旧築地中央市場造成層から出土した遺物は、近代以降、昭和期までに比定されるものが主体となるが、数は少ないものの、中には近世の陶磁器類も含まれる。②を構成していた層から出土した遺物は、19世紀代の陶磁器類のほか、瀬戸・美濃産の端反りの碗や筒丸碗、肥前産の磁器碗や陶器碗、「泉州麻生」銘を有す焼塩壺など、17世紀後葉から18世紀前葉頃の遺物も併せて出土している。③の近世の生活面を構成していた層から出土した遺物は、肥前産磁器では、波佐見・平戸産のものがみられ、雨降り文の碗など、17世紀後葉から18世紀後葉にかけての遺物が主体である。

整地面 試掘坑③の調査で明らかになった整地面と構成する土層を以下に記す。

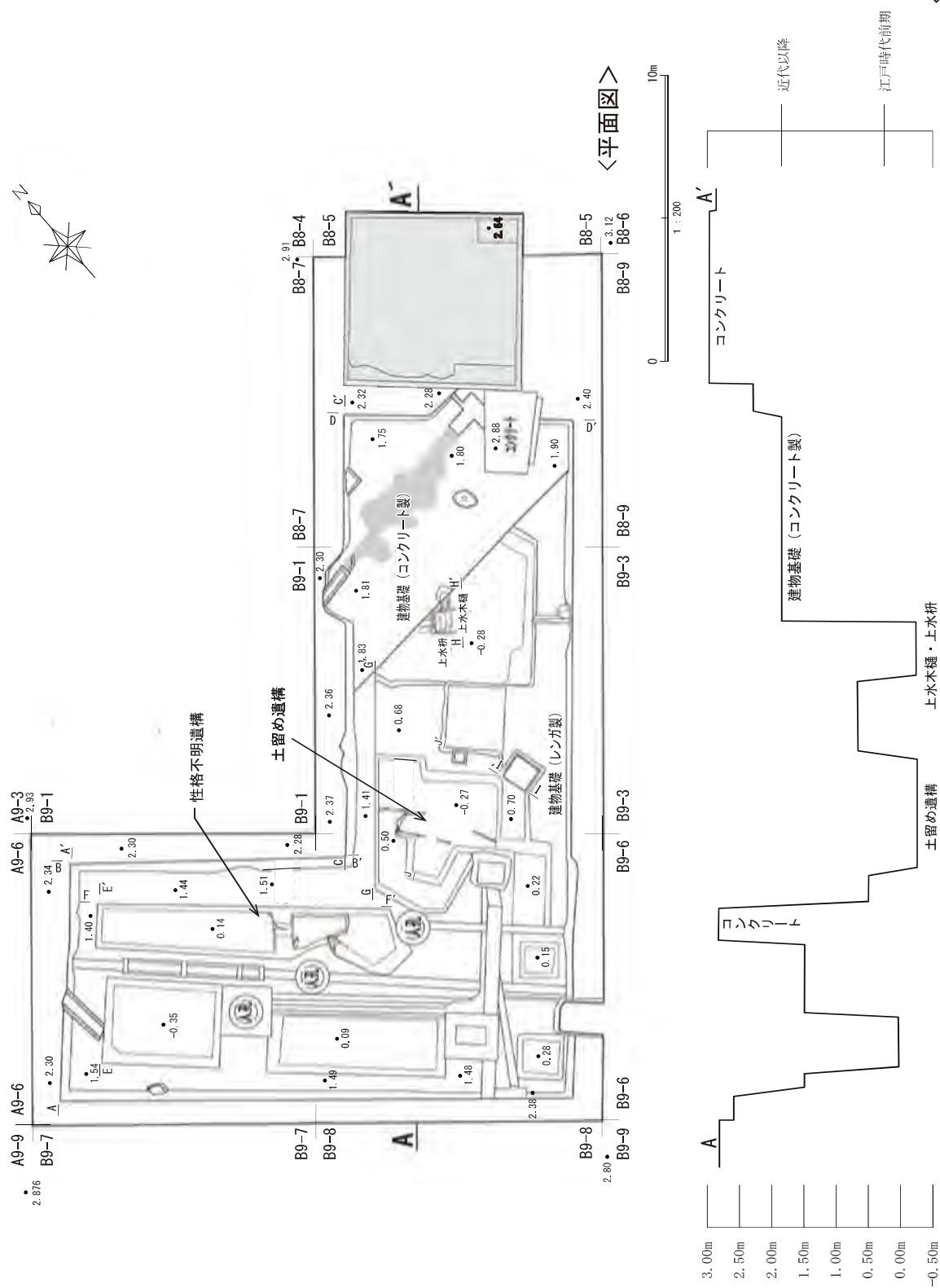
- ① 昭和10年の築地市場開設に向けて造成した整地面（旧表土層）
- ② 関東大震災後に海軍省の関連施設の廃材を埋め造成した整地面（1～3層）
- ③ 明治16年（1883）に開校された海軍兵学校の生徒館が建てられた近代の整地面（4～13層）
- ④ 近世に比定される整地面（基本土層21層と22層の間）。



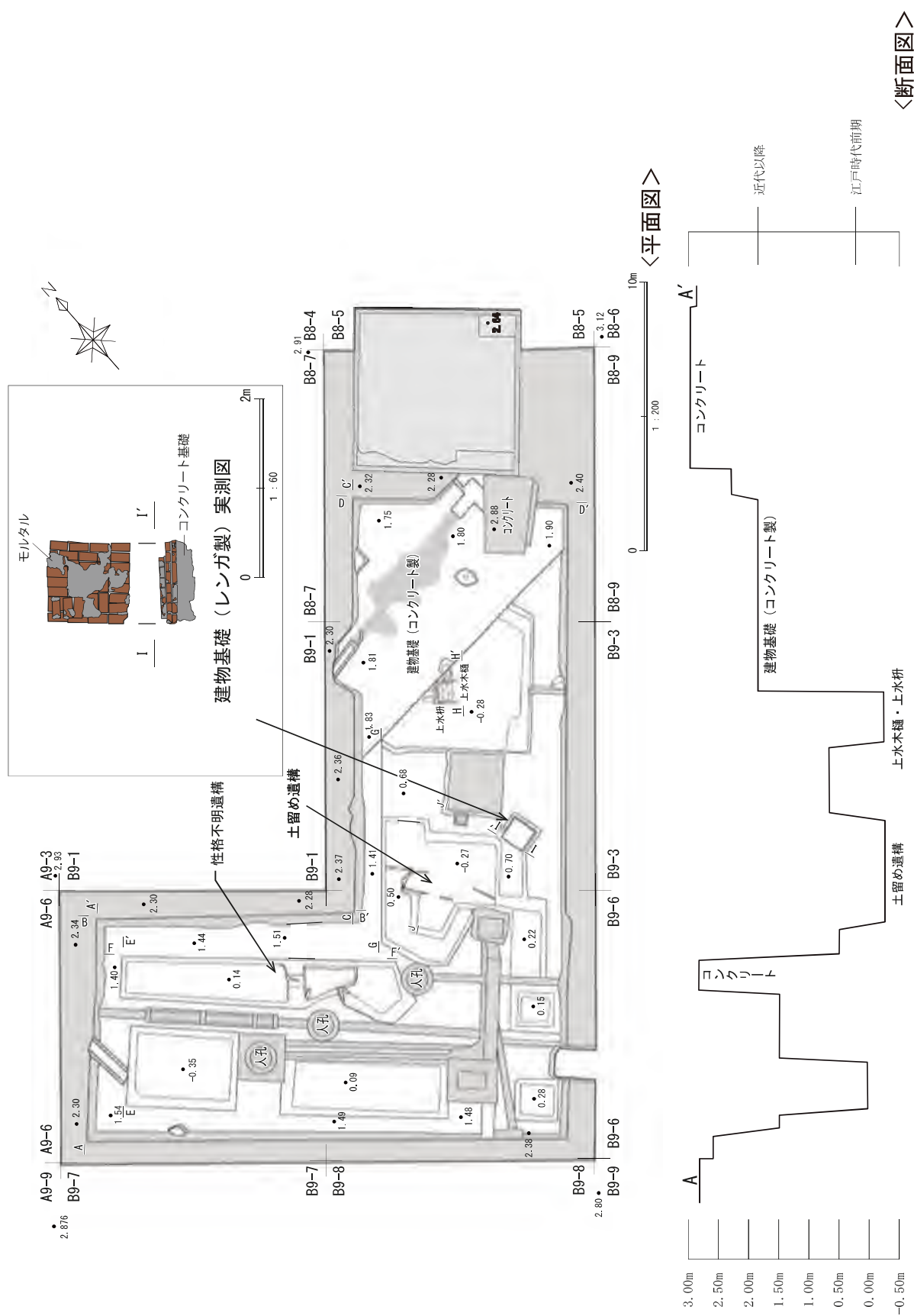
23図「海軍兵学校生徒館」明治16年(1883)竣工（東京都中央区京橋図書館所蔵）

*写真の向かって左側が今回の試掘調査区に該当すると想定し調査を行った。

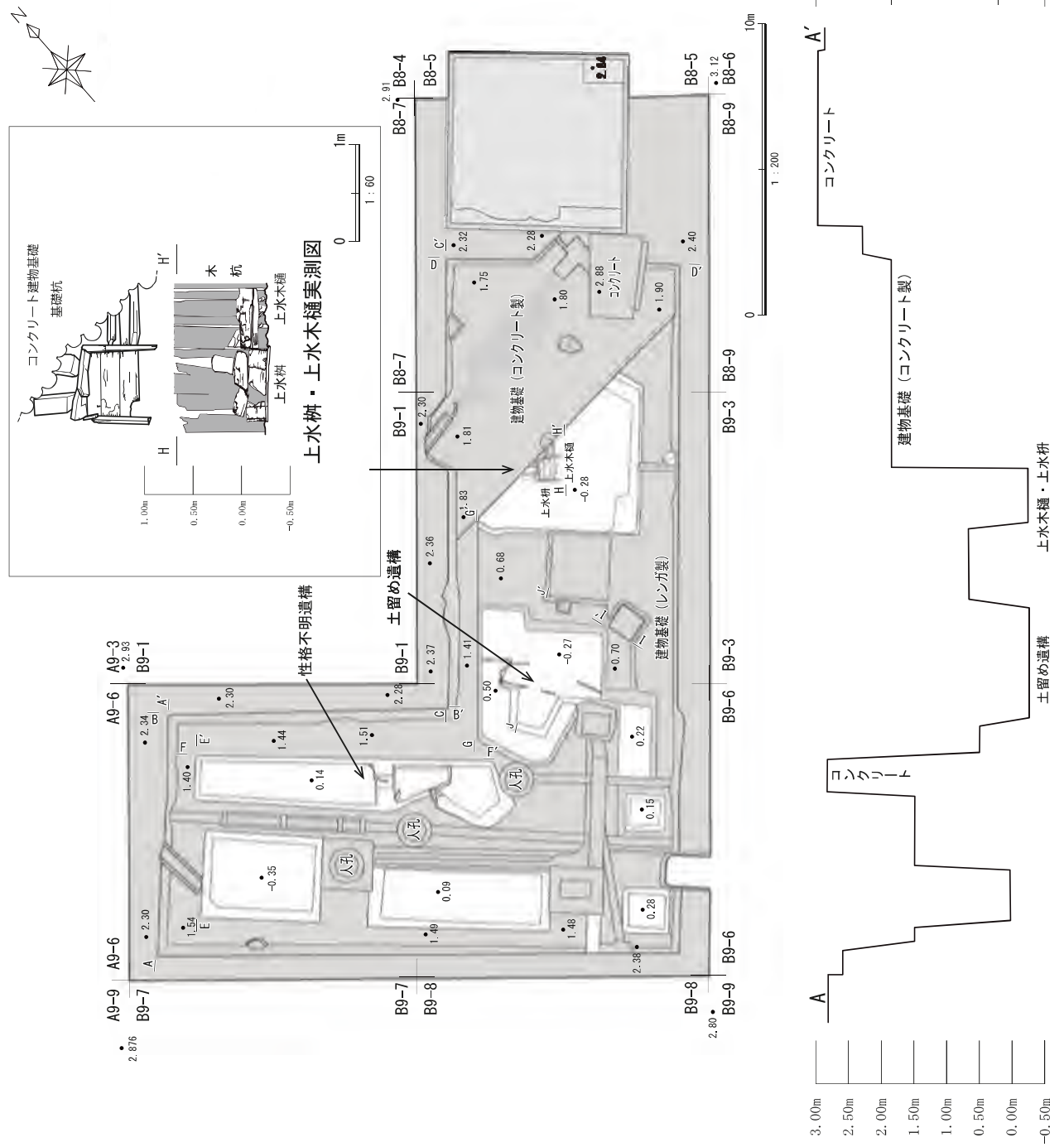
24 図 試掘坑③遺構実測図-1 (H=1.50m)



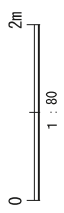
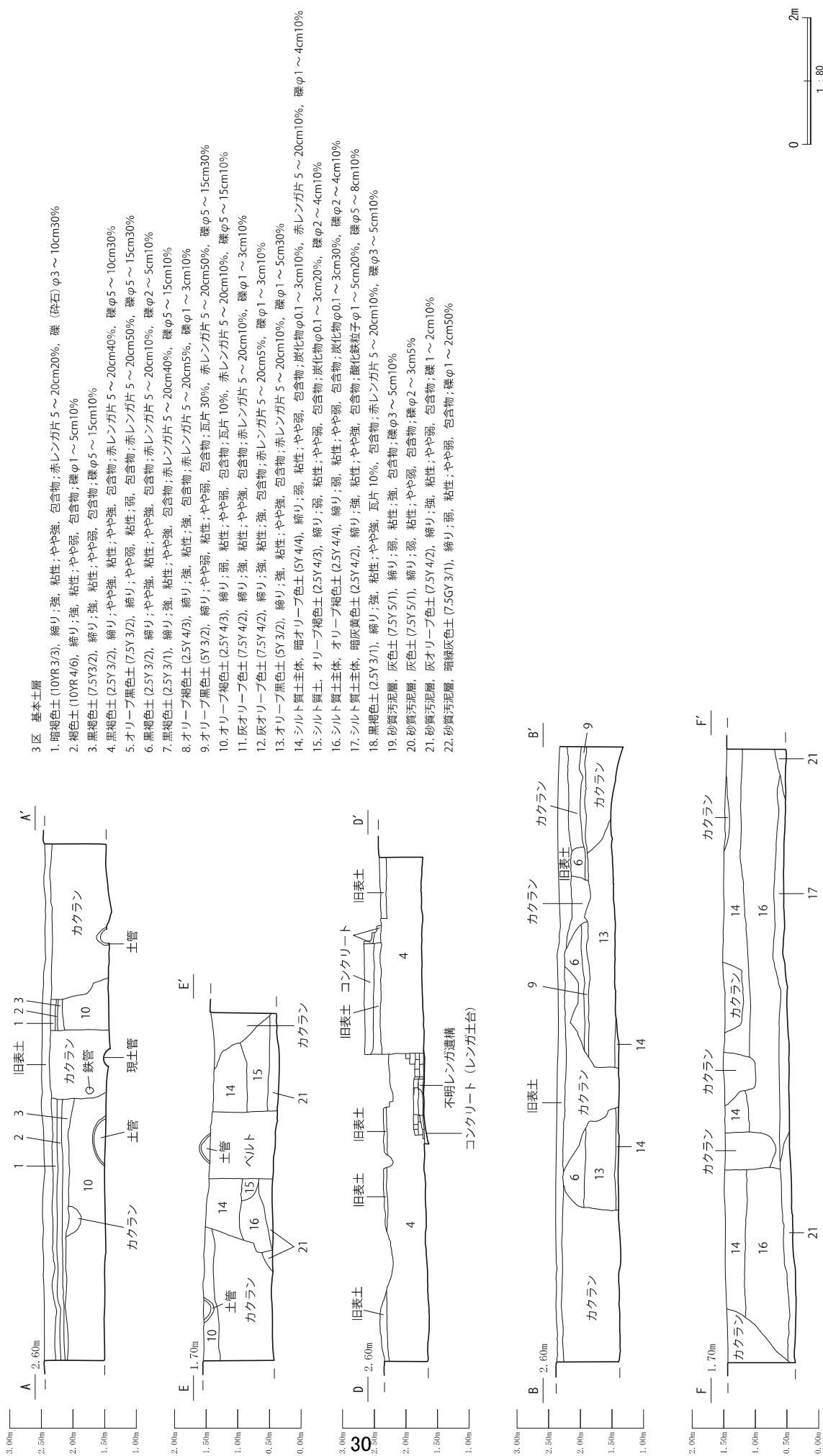
25 図 試掘坑③遺構実測図-2 (H=1.80m)



26 図 試掘坑③遺構実測図-3 (H=0.00m)



27 図 試掘坑③遺構実測図 -4



1 : 80
断面図

表 1 出土遺物集計表

		磁器	陶器	炆器	瓦質 土器	土師質 土器	瓦	土 製品	金属 製品	木 製品	骨角 製品	ガラス	石 製品	自然 遺物	江戸 以前	近代 遺物	銭貨	レンガ	合計
試掘坑①	A区	点数	3	1			3	1						1				212	221
		重量	311	43			831	4						53				39,875	41,117
	下層	点数	38	50			4											450	544
		重量	787	620			1,108											68,758	71,406
	木杭群上面	点数	44	50			3			1								21	123
		重量	588	1,639			1,065			5								2,457	5,919
	木杭群内	点数	126	136		1	5											18	304
		重量	1,650	3,628		5	1,329											2,902	10,568
	土丹上面・内	点数	11	22			1											29	65
		重量	39	404			201											3,805	4,508
	石積遺構D内	点数	4	1			6											38	50
		重量	93	20			1,662											5,584	7,394
	A トレンチ	点数	11	6			1											49	67
		重量	78	514			157											13,057	13,806
	攪乱	点数	68	43		1	1											18	148
		重量	469	928		8	176											2,580	4,611
	B区	点数	2	1														27	30
		重量	5	45														4,802	4,852
	B-1 トレンチ(攪乱)	点数	3	7														20	31
		重量	40	183														3,978	4,221
	C トレンチ	点数	7	4			1											25	37
		重量	24	31			83											4,525	4,663
	木杭内	点数	5	6		1	1											67	80
		重量	96	129		45	34											12,001	12,305
	木杭上層	点数	10	20														101	131
		重量	40	562														29,587	30,189
	攪乱	点数	34	37			3			1								130	214
		重量	505	648			840			5								26,588	28,611
																			0
																			0
	合計	点数	366	384		3	29	1	0	2	0	35	0	1	0	0	0	1,205	2,045
		重量	4,725	9,394		58	7,486	4	0	10	0	422	0	53	0	0	0	220,499	244,170

表2 出土遺物集計表

		磁器	陶器	炱器	瓦質 土器	土師質 土器	瓦	土 製品	金属 製品	木 製品	骨角 製品	ガラス	石 製品	自然 遺物	江戸 以前	近代 遺物	銭貨	レンガ	合計
A区	覆土内	点数	56	34	1	1	6		3			11		1				285	398
		重量	3,297	5,292	152	43	1,705		34			1,083		25				48,201	59,832
	石積遺構F外面	点数	21	23			6		2	1		3						168	224
		重量	436	2,651			2,176		435	4		62						22,051	27,815
B区	覆土内	点数	15	17			3		1			1						218	219
		重量	122	5121			798		233			588						38,255	38,843
	石積遺構G外面	点数	11	28	1	1	7					7						129	184
		重量	98	1,313	27	19	1,773					77						20,879	24,186
C区	一層 壁際	点数	2	2			6											143	153
		重量	44	158			1,684											27,668	29,554
D区	覆土内	点数	6	2	1		6					2						203	220
		重量	257	50	98		1,709					60						39,875	42,049
	石積遺構H内	点数	12	9		1	9					2						198	231
		重量	100	211		6	2,493					69						36,870	39,749
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
																			0
合計		点数	108	98	2	1	3	40	5	1	0	26	0	1	0	0	0	1,344	1,629
		重量	4,232	9,675	125	152	68	11,540	469	4	0	1,939	0	25	0	0	0	233,799	262,028



遺構完掘状況（直上）



令和4年度試掘坑①との合成画像（直上）



石積遺構C・木杭群検出状況1（北東から）



石積遺構C・木杭群検出状況2（北西から）



木杭群検出状況1（北西から）



石積遺構C・木杭検出状況2（南東から）



木杭群検出状況2（北から）



石積遺構D・木杭群検出状況1（南から）



石積遺構D・木杭群検出状況2（北西から）



遺構完掘状況（直上）



令和4年度試掘坑①との合成画像（直上）



石積遺構G検出状況（東から）



石積遺構H検出状況（南東から）



石積遺構E検出状況（南西から）



石積遺構E・F検出状況（東から）



石積遺構H検出状況（南東から）



石積遺構F・H検出状況（西から）



石積遺構F検出状況1（南東から）



石積遺構F群検出状況2（東から）



石積遺構H検出状況（北西から）



遺構完掘状況（直上）



建物基礎（コンクリート製）検出状況（東から）



建物基礎（松杭群）検出状況



建物基礎（松杭群）・上水木樋・上水枡検出状況（南東から）



上水木樋・上水枡検出状況（直上）



上水木樋・上水枡土層（南東から）



建物基礎（レンガ製）検出状況（西から）



土留め遺構土層（南東から）



土留め遺構検出状況（東から）



性格不明遺構検出状況（北東から）

試掘坑①出土遺物

P L 4



上層-1



上層-2



上層-3



上層-4



下層-1



下層-2



下層-3



下層-4



下層-5



下層-6



杭群上面- 1



杭群上面- 2



杭群上面- 3



杭群上面- 5



杭群上面- 6



杭群上面-4



土丹上面-1



杭群内-1



杭群内-2-a



杭群内-2b



杭群内- 3



杭群内- 4



杭群内- 5



杭群内- 6



杭群内- 7



杭群内-8



杭群内-9



杭群内-10



杭群内-11



杭群内-12



杭群内-13



杭群内-14



杭群内-15



杭群内-16



杭群内-17



杭群内-18



杭群内-19



石積遺構D内-1



石積遺構D内- 2



土丹内-1



土丹内-2



木杭-2



木杭-3



木杭-4



木杭-5



攪乱-1



攪乱-2



攪乱-3



攪乱-4



攪乱-5



攪乱-6



攪乱-7



攪乱-8



攪乱-9



攪乱-10

試掘坑②出土遺物

P L 5



A区一括-1



A区一括-2



A区一括-3



A区一括-4



A区一括-5



A区一括-6



A区石積遺構F-1



A区石積遺構F-2



A区石積遺構F-4



B区-1



C区覆土-1



D区覆土



D区覆土



D区覆土

試掘坑③出土遺物



上層-1



上層-2



上層-3



上層-4



上層-5



中層-1



中層-2



中層-3



中層-4



中層-5



中層-6



中層-7



中層-8a



中層-8b



中層-9



中層-10



中層-11



下層-1



下層-2



下層-3



下層-4



下層-5



下層-6



下層-7

出土遺物「試掘坑①-1」

P L 6



試掘坑①Aトレンチ



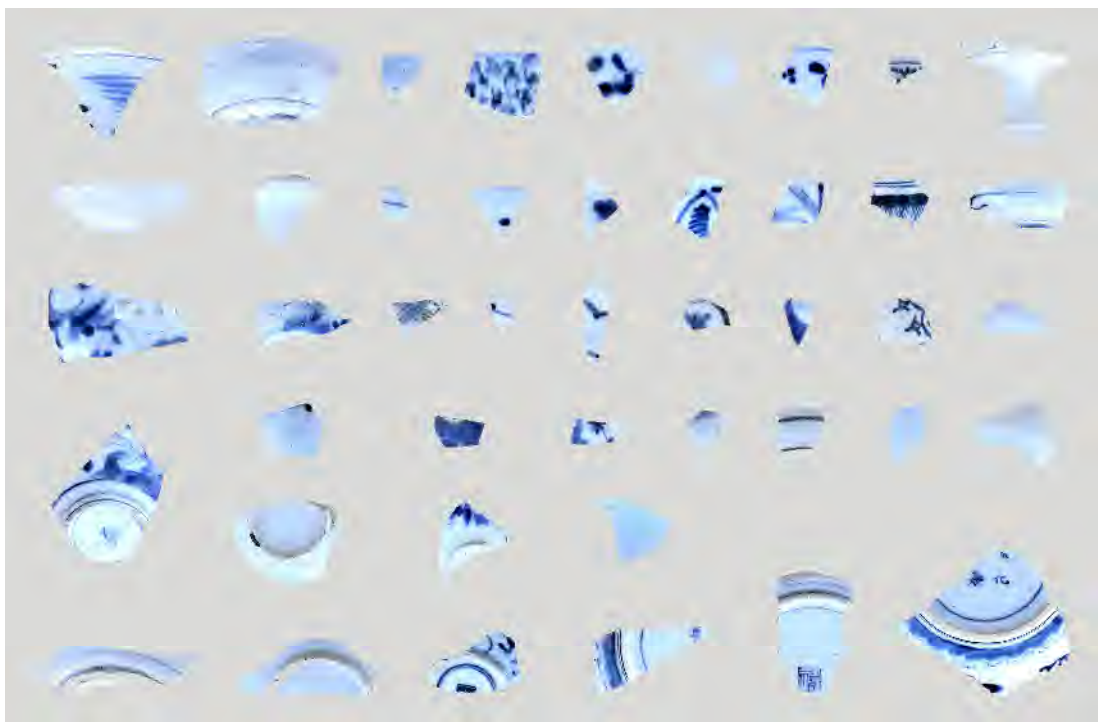
試掘坑①Bトレンチ



試掘坑①Cトレンチ



試掘坑①上層（石積遺構より上層）



試掘坑①下層（石積遺構の隅田川側）（1）



試掘坑①下層(石積遺構の隅田川側) (2)



試掘坑①土丹上面



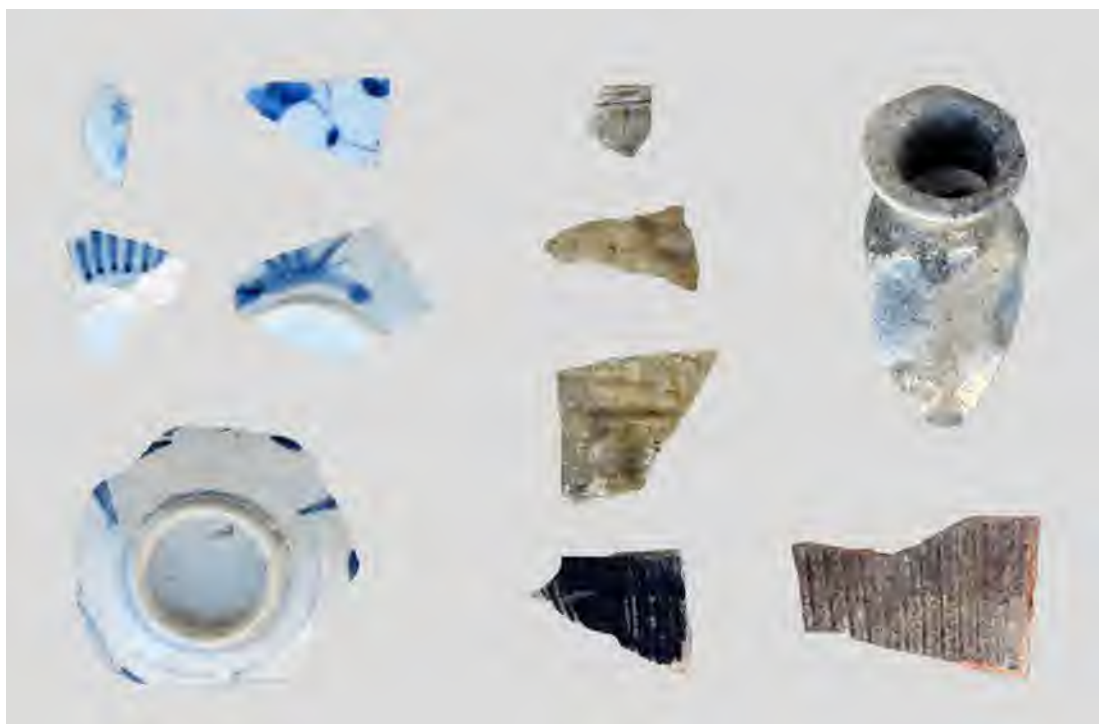
試掘坑①土丹内



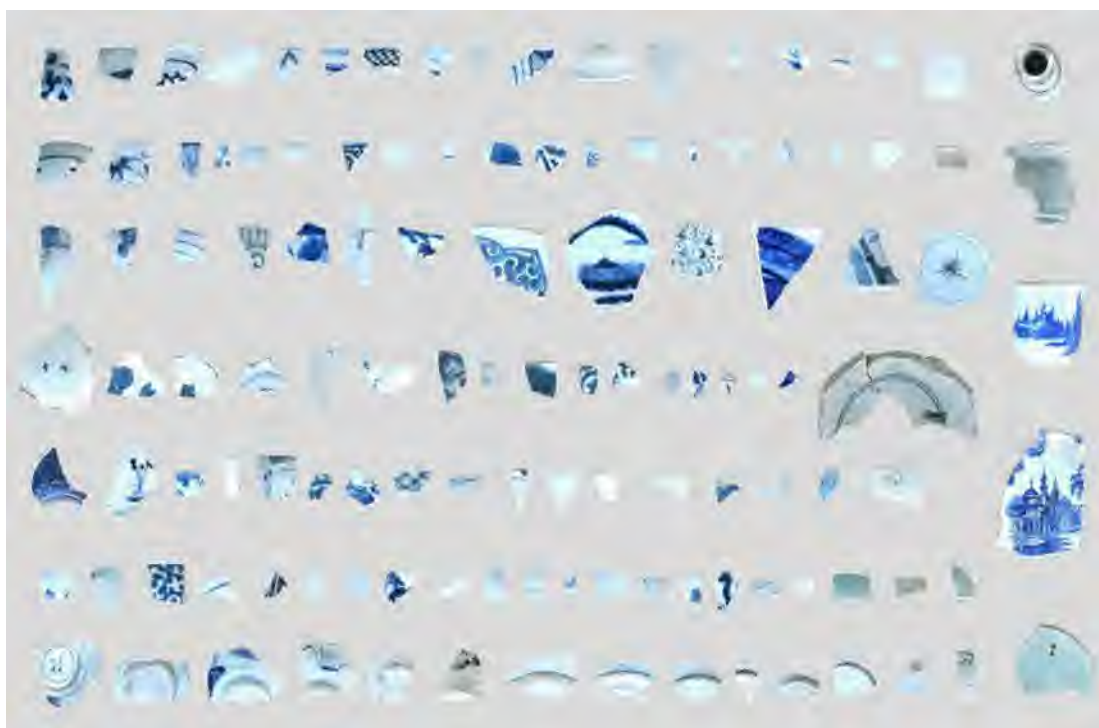
試掘坑①木杭群上面



試掘坑①石積遺構 D 内



試掘坑①木杭内



試掘坑①木杭群内 (1)



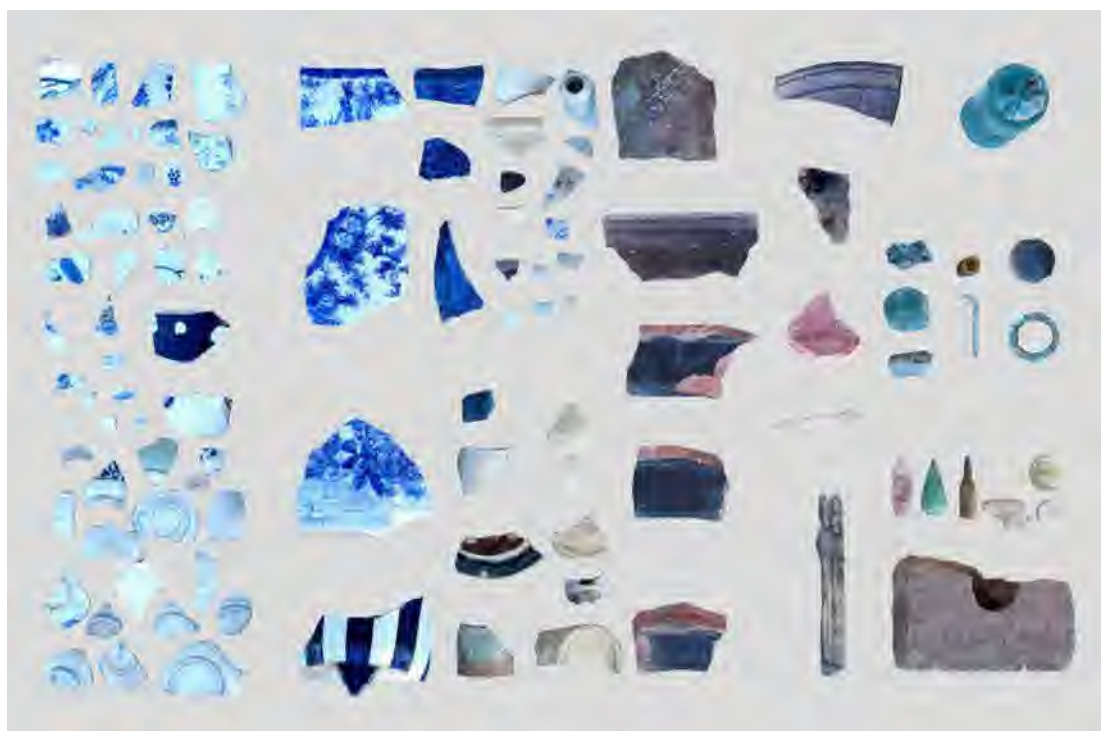
試掘坑①木杭群内 (1)



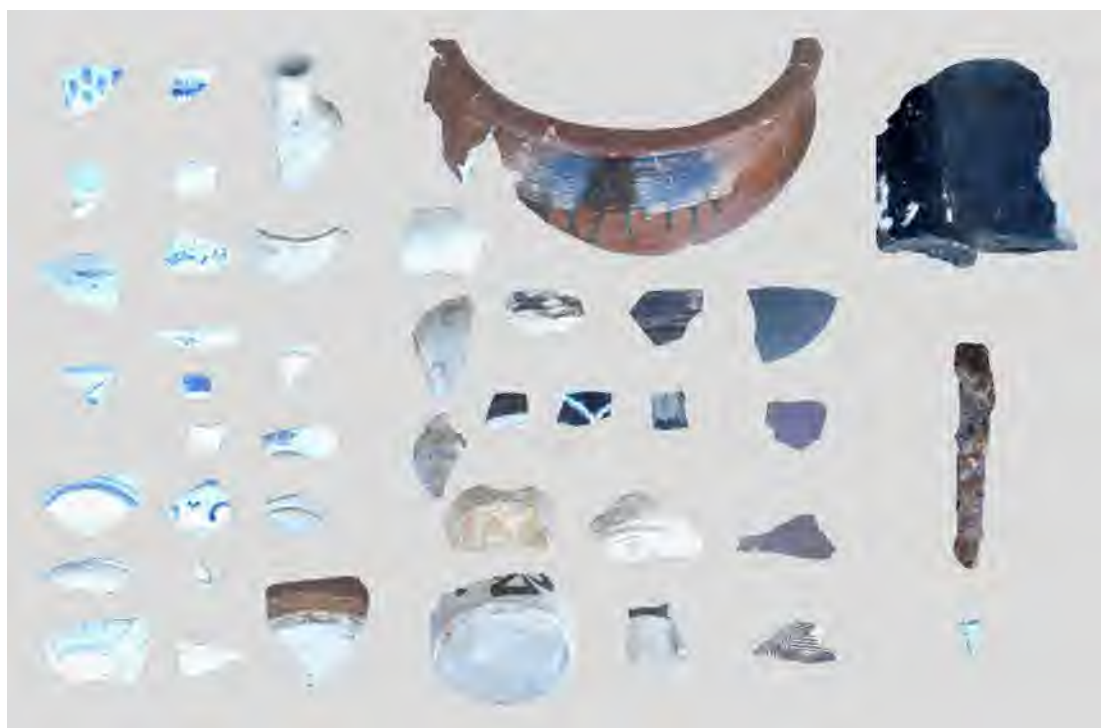
試掘坑① A 区攪乱



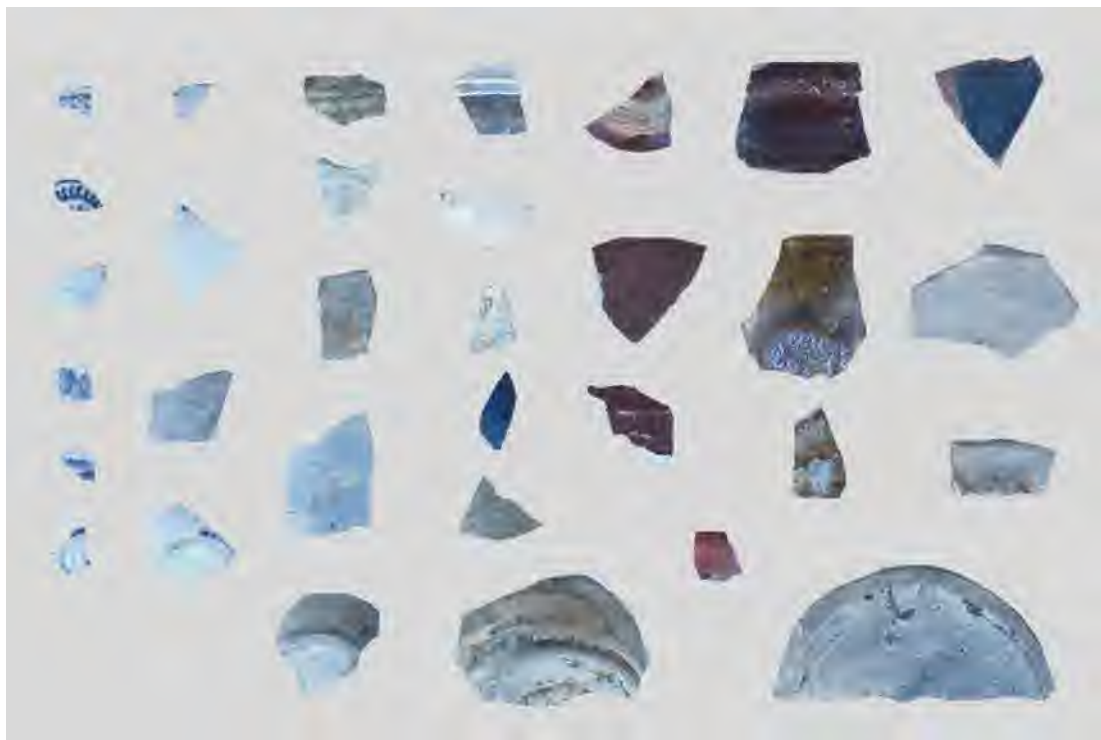
試掘坑① B 区攪乱



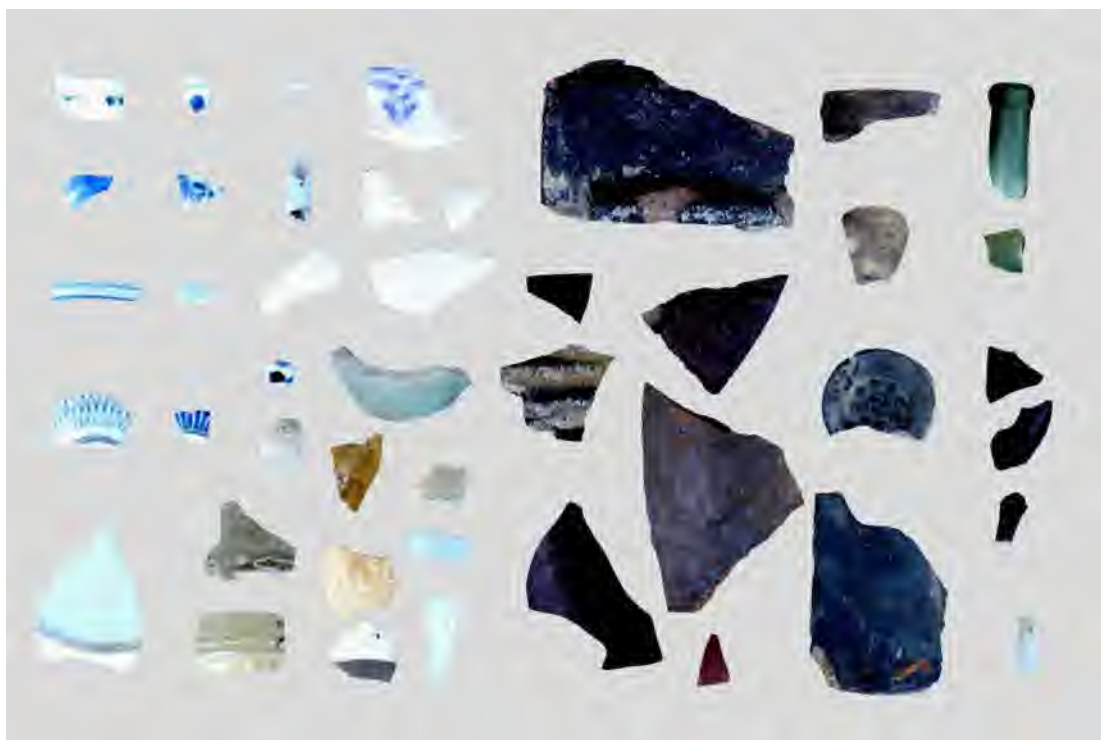
試掘坑②A区一括



試掘坑②A区石積遺構F隅田川側



試掘坑②B区一括（1）



試掘坑②B区石積遺構G隅田川側

出土遺物「試掘坑②-3」

P L 12



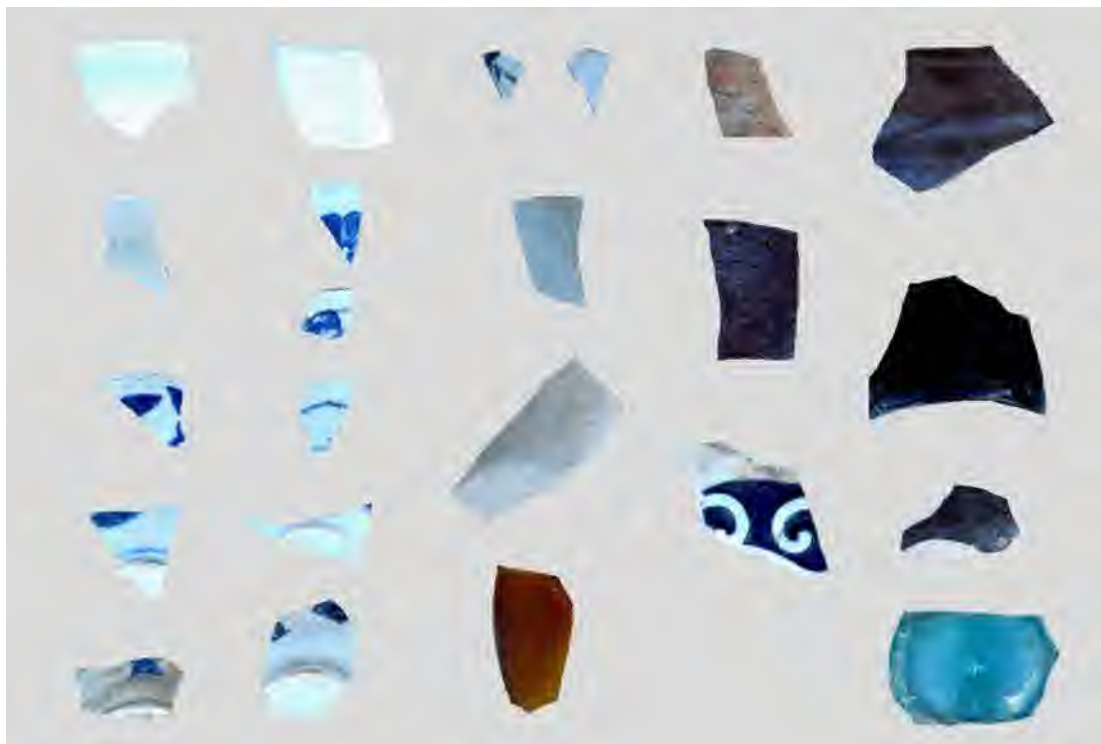
試掘坑②B区一括 (2)



試掘坑②C区一括



試掘坑②D区一括



試掘坑②D区石積遺構H隅田川側



試掘坑③上層



試掘坑③中層 (1)



試掘坑③中層 (2)



試掘坑③下層

